# 理事長登壇⑩

東北学生連盟理事長
斉藤　節郎



　東北学連の現況を申し上げる前に、諸先輩の築かれた歴史をひもといてみたいと思います。東北学連として発足する前身は、昭和二十八年仙台にある東北学院大学、東北大学、東北薬科大学の3校によるリーグ戦がきっかけで、二年程続けられ、その間福島大、山形大、岩手大にも部が創設され、昭和三十一年十月正式に東北学連のウブ声を上げ、今日まで十七年間続いて参りました。十年前、北海道からも北大などが加わるようになり東北北海道学連として一地盤を形成して来たのです。今春になって北海道にも六大学に部が創設され一つのブロックを形成されることになったため、北海道学連が分離独立されました。従って再び東北学連は本来の姿に戻り、前述の大学の外に、弘前大、秋田大、宮城教育大、東北工業大学、東北学院大工学部と十一大学が加盟、約三百名の選手を擁して、年二回選手権大会を各県持廻りで行っております。

　このうち、部として大学側から予算をもらっているところは五大学にすぎず、そのほかの六大学は部員の涙ぐましいアルバイトなり、親のすねをかじっているのが現状です。これは、当学連としての見すごせぬ〝課題〟です。

　連盟自体の問題点も少くありません。先ず、何といっても来年のインカレ開催を、お引き受け致すことに内定しましたのでこの大会を成功させることが最大であります。

　インカレの開催は昭和37年（第5回大会）にいちど経験をしていますが、十年前の経験を活かすといっても、当時とは学生界そのものの規模が段違いです。人的組織の確立を計り、今度行われる秋季大会を契機に準備段階に入り、慎重を期したいと思っています。また、当学連加盟各校の技術的レベルアップを計り、インカレではベスト8に残れるようなチーム造りも行いたいと思っています。

　次に最近の学生ハンドボールに想うことを若輩ながら述べさせていただこうと思います。最近の学生諸君に望みたいのは「素直で努力を惜しまないこと」です。これを信条として、練習量の多い、しかも肉体的、精神的にも若い諸君が全日本のタイトルを獲得する意気込みをぜひ見せてもらいたいのです。又、クラブ活動を通しての人間形成という場からしても、学生諸君はただプレーだけを考えて済ますのではなく、各諸管轄の協会の手足となって、事務系統への助力や、レフェリーをかって出てもらいたい。特に、卒業後はなんらかのかたちで尽力して欲しいと思います。

　各地の学生界が、今日の隆盛を築きあげたうらには、現役選手諸君の努力もさることながら、OBの情熱が大きな力となっていたことはいうまでもありません。

　OBなくして各大学や、各学連は今日を迎え得なかったでしょう。

　現役諸君も学窓を出たら、それでハンドボール、ハンドボール界と縁が切れるのではなく、新しく若い感覚をもったOBとして、新分野で、このスポーツへの新しい情熱を燃やすことを期待したいと思います。

　最後に日本協会への注文を並べます。第一に、地方学連などは加盟大学も少なく、しかも大学側より援助のないチームの多い現状で日本ハンドボール協会への登録金を、もう少し安く配慮して欲しい。日本協会への納入金のほか全日本学連、所属学連、所属地方協会等々、幾重にも負担がかかるのはあまりにも大きいのです。

　第二に、ハンドボールの普及発展とレベルアップが叫ばれている時、各ブロックへ中央より技術指導に二年に一度は訪問させて頂きたい。又、先日来日したユーゴナショナルチームとの試合や、練習風景等をビデオまたはフィルムに収録して、各ブロックへぜひ配布して欲しい。

　第三に5月号で北信越学連の若山博氏が述べておられる通り、機関誌の店頭販売と、年一回ハンドボールの記念新聞を発刊して、全国のハンドボールファン、オールドファンに呼びかけてはどうか。

　第四に国体の出場の条件に、年令制を布いたクラブチーム主体の種別を考慮願いたい。

　以上大変とりとめないことを書きましたが、地方の学連ということで、経済的、技術的、人材不足というハンディキャップがありますが、東北人持ち前の粘りと根性で何とか微力ながら、頑張る所存ですので、今後とも各位に宜しくご指導、ご鞭撻の程を貴重な誌面をおかりしてお願い申し上げます。

（東北学院大OB）

「ハンドボール」
11月号（第114号）目次



【表紙写真】千葉国体・一般女子決勝、東京重機(白)―日本ビクターゴール前の闘志。（10月18日、佐原市。撮影・山田真市）

# 世界女子選手権代表決まる

## 団長に田村会長

世界選手権めざす全日本女子代表団15人が勢揃いした——日本協会は今冬12月8日から15日までユーゴスラビア各地で開かれる第5回世界女子選手権に出場する代表チームの選考を進めていたが、まず、井薫全日本女子監督らコーチングスタッフによってGK2、FP10の計12選手の名簿が9月29日の月例常務理事会へ報告され、同会議でさらに団長として田村正衛日本協会々長を推せん、また、10月に入って井監督からコーチに鈴木義男氏（田村紡績監督）が推され、役員3、選手12の編成を終えた。

日本協会では全国評議員会・理事会の両会議が11月11日のため、選手団出発（11月20日午後10時30分羽田発に内定）まで日がなく、会長権限によって、評議員、理事らには文書（郵便投票）で了解を求めることになり、10月25日までに過半数を越す「承認」を得て、正式発表となったものである。

晴れの代表12選手のうち、7選手が2年前の第4回大会代表。キャリアを活かした布陣は、念願のベストエイト進出に大きな期待がかけられる。

日本女子が世界選手権に参加するのは4度目。

## 前回代表7人を中心に編成

**第5回世界女子選手権 日本代表選手団**

| | | | |
|---|---|---|---|
| ▽団　長 | | | |
| | 田村　正衛 | (61) | 日本協会会長 |
| ▽監　督 | | | |
| | 井　　薫 | (35) | 大洋デパート監督 |
| ▽コーチ | | | |
| | 鈴木　義男 | (35) | 田村紡績監督 |
| ▽選　手 | | | |
| GK | | | |
| ○ | 小原　名苗 | (25) | 大洋デパート |
| | 和田　祥子 | (21) | 大崎電気 |
| FP | | | |
| ○ | 垂水　秀代 | (25) | 大洋デパート |
| ○ | 牧野　涼子 | (24) | 東京重機工業 |
| ○ | 米　恵美子 | (25) | 大洋デパート |
| ○ | 三毛　直子 | (24) | 田村紡績 |
| ○ | 古佐原ひろ子 | (23) | 東京重機工業 |
| ○ | 島田　夏枝 | (23) | 大洋デパート |
| | 蔵田　照美 | (22) | 大洋デパート |
| | 鳥居　君子 | (21) | ブラザー工業 |
| | 山下恵美子 | (20) | 大洋デパート |
| | 高野　晴子 | (20) | 日本ビクター |

○印は第4回世界選手権（昭46）代表

### キャリア重視の選考

出揃った顔ぶれは、一言で言えば〝少数精鋭〟である。日本協会が、当分のあいだ、世界選手権への派遣は12名（GK2 FP10、男子も）としぼりこんだため、井監督らコーチングスタッフも、かなりその編成には苦心したようで、結局、あらゆる局面に応変できる技能の持ち主と、海外遠征の経験者が主力になった。

前回は、6年間のブランクがあり、コーチ、選手ともに遠征のハンデを背負されて、いささか自己のペースを失った印象が強かったが、今回はその点で、まったく心配なさそうだ。

### 心技体揃う連続組

連続して代表の栄光に輝やいた小原(GK)、垂水、牧野、米、三毛、古佐原、島田の7選手はいずれも抜群の勝負カンと展開力を誇り、前回の体験を活かして、昨年、今年といちだんとそのプレーにみがきがかかっている。

各選手とも、長く日本女子界の頂点に立ち、激しい試合に明け暮れ、すばらしい闘志と気力を身につけている。それだけに、彼女らにとって、2年前の低調な成績は「悔しい」思い出であり、帰国後から今日までに示した精進の目的は〝世界〟という桧舞台で、もういちど自分たちの力と技を試そうとする一点にしぼられていた、といっても言いすぎにはなるまい。

### 個性のある若手選手

初出場組は和田(GK)、蔵田、鳥居、山下、高野の5選手。

いずれも個性のある若手だ。蔵田、山下は女王・大洋デパートのレギュラーとして今シーズンめきめき腕をあげ、鳥居は昨シーズンあたりから、破壊力では国内随一という定評を得ているアタッカー。

高野は小柄（152cm）ながら、すばらしいスピードと、果敢な攻撃で定評があり、古佐原とコンビを組むようなことがあれば、大柄で力まかせ一本の欧州選手のなかにあって、異色の働きを示すのではなかろうか。

山下、高野とも、全日本入りは選考最終段階の今夏7月で、一足とびに代表の座を得たのはラッキーである。この幸運、ぜひとも活かして欲しいところ。

### GKは老巧小原と新鋭和田

選考にあたって、もっとも苦労したのはGKのようだ。

守備力、攻撃への転換力、配球力とも申し分のない小原は、誰がみても〝当確〟であったが、あと一人は甲乙つけがたい候補者が居並んだ。しかし、どの選手も、コーチングスタッフが重視するキャリアという点で、物足りなさがあった。

それというのも、昨年から今春にかけて北岡（愛知教員ク、前回代表）、佐藤（ブラザー工業）、長岡、上杉（ともに東京重機）らが相次いで第一線を退き、小原と後続の間に、スキ間があいてしまったのである。

48年度女子ナショナルには5人のGKがリストアップされているが、最終選考で安定感のある和田が残った。若さにあふれた思い切ったプレーを期待したい。

### 惜しまれる池田（日本ビクター）

チーム別では、厚味のある攻守で、最近1年間2敗という大洋デパートから6人が選ばれたのは順当といえる。ブラザー工業、日本ビクターから世界選手権代表の選出は初めて。

惜しくも選にもれたなかでは、

池田（日本ビクター）に同情の声が集っている。5年前、第4回世界選手権代表に選ばれたが、出発直前、同大会が国際事情で流会。

前回は、所属チームが三菱鉛筆（廃部）から日本ビクターに変わったばかりとあってチーム造りに追われて候補を辞退、そして三たび、今回も最終段階までリストに残りながら、ヒザの故障が全治せず辞退。

選出されれば、初の奥さん選手として注目をあびたであろう。たゆまない同選手の節制と情熱に、改めてねぎらいと賞さんの拍手を送りたい。

学生界から唯一人選ばれていた畑中（東京教大）が、同型の選手が多いということで見送られたのも惜しまれる。

大工原（GK、日体大―前橋ピジョンズ）、嶋田（日体大―全千葉）、木村（日体大―日立栃木）らもそれ、今回は学生界育ちの選手は一人もいないことになった。

学連の悩みと現況を、そのまま浮き彫りにした、ともいえそうだ。

### 左腕のいない編成

今回の12選手はいずれも右腕で、左利きの選手が一人もいないという変則的な編成となった。

垂水、米が左右両手を使い分けるだけに、井監督は「特に不安はない」といっており、むしろ両選手のテクニックで、相手ディフェンスをかく乱することを考えているようだ。当然ながら日本の主戦法はスピードとクイックパスで、9年前(第3回大会)「東洋のミツバチ」と異名をつけられた速い攻めと守りが今回も評判をよぼう。

コーチ陣については、1年前に早々と「井監督」を決めており、コーチの選任は、同監督へ一任されたかたちとなっていたが、鈴木氏に落ちついた。

井―鈴木のコンビは、43年のチーム編成時にも決定していたものである。（当時は両氏ともコーチ）

なお、池田、藤原両コーチも、欧州女子界事情を視察するため、チームに同行（自費）の予定。

### モントリオールは次回重視

ところで、今回の代表は、前述のとおり、日本協会の精鋭策から即戦力重点が採られたため、3年後のモントリオール対策というものはほとんど配慮されていない。

一部には、モントリオールへの第一歩として、若手中心の派遣を望む声もなくはなかったが、IHF（国際ハンドボール連盟）は、2年後に第6回大会を予定していると伝えられ、すでに、その開催地にソビエトが立候補もしている。

渡辺和美IHF理事（日本協会副会長）からの情報によれば、モントリオール・オリンピックの女子ハンドボールは6ケ国の参加でこのうち1ケ国はカナダ(開催国)残りの5ケ国は第6回大会(昭50)の1位から5位までになりそうだということであり、日本協会のモントリオールに向けての女子対策は、今大会の終了後から本格化するものと、消息通はみている。

しかし、今回の12選手はいずれも25才未満で、ヨーロッパ諸国の一線選手と比べれば、2年後（第6回世界選手権）、3年後（モントリオール）まで、じゅうぶん、その力と技を引き伸ばせると思える。

また、22才以下の選手が5人いることは心強い。

### すっきりした選考経過

昨年11月、大阪で開かれた技術指導部会（当時）を出発点に、同12月、井監督の推せん、そして今回の代表選手決定まで、日本協会が候補を含め選手の選考をいっさいコーチングスタッフに一任したのも特筆すべきことであった。

日本協会機構の上で技術畑、運営畑の二分は、以前からさかんにいわれながら、なかなか実現できず、時には百家争鳴、バックボーンさえ見失うことさえあった。

それが、今回は実にすっきりと各段階でのリストアップが手続きされている。

荒川理事長の勇断と、井監督らコーチングスタッフの運行が巧くかみあったといえる。

派遣人数や事務面などで調整すべき課題が皆無とはいわぬが、今回の法式は当然、男子にも適用されるべきであり、そのためには懸案の強化委員会を一日も早く編成すべきだろう。

出発まであと20日。四たび世界選手権に挑む日本代表団の健闘を願ってやまない。

### オランダ国際にも出場

全日本女子代表は、11月23日から26日までビークベルゲンで開かれるオランダ招待トーナメントに参加する。同トーナメントは、日本のほかオランダ、ノルウェーまたは西ドイツ、オランダジュニアが出場する予定である。

日本が、世界選手権以外の国際大会に参加するのは、男子が44年タシマイダンカップ(ユーゴ)、ボインツアカップ（ルーマニア）に出場して以来のこと、女子は初。

また、同トーナメントのあと、フランスで2～3試合（11月26日～30日）、ユーゴで2～3試合(12月1～7日）のトライアルゲームを行う予定。

### 代表チームを承認

日本協会は別掲の第5回世界女子選手権代表団（田村団長ら15人）について、全国評議員・理事に文書承認を求めていたが、10月25日現在、評議員32通（定数52）、理事21通（現在数30）と過半数をこす承認を得た。

### 第5回世界女子選手権 組み合せ・日程

▽予選リーグ（12月8～10日）
A組　ハンガリー，西ドイツ，チェコ
B組　ルーマニア，ノルウェー，日本
C組　東ドイツ，ポーランド，ソビエト
D組　ユーゴ，デンマーク，ギニア
▽準決勝リーグ（12月12～13日）
1組　予選リーグA，B各組上位2者
2組　予選リーグC，D各組上位2者
▽9～12位決定リーグ（12月12～14日）
予選リーグ各組3位によって行う。
▽順位決定戦（12月15日・ベオグラード）

▽日本の予選リーグ日程
12月8日18時　対ルーマニア
9日18時　対ノルウェー
（会場はザビドビッチスポーツホール）
▽準決勝リーグ1組はネゴティン市
▽9～12位決定リーグはノヴィサット市

# 全日本女子の横顔（世界選手権代表団）

団長　田村　正衛

監督　井　　薫

コーチ　鈴木　義男

## 役員

**団長　田村　正衛**

日本協会々長。第8回世界男子選手権（昭45）選手団々長、田村紡績社長、明治39年1月生まれ、同志社大出

**監督　井　薫**

大洋デパート監督。第4回世界女子選手権（昭46）コーチ、36才中央大出、全日本実連理事

**コーチ　鈴木　義男**

田村紡績監督。36才、四日市商出、昭44ユーゴ・国際ハンドボール講習会出席、三重協会常任理事

## 選手

**GK　小原　名苗**

大洋デパート。第4回世界選手権（昭46）代表、公式国際試合出場8回、25才、163㎝、54K、熊本県水俣市立湯出中出身

**GK　和田　祥子**

大崎電気。昭47訪韓全日本実業団選抜代表、21才、167㎝、64K、神奈川県愛川中—二俣川高出身

**FP　垂水　秀代**

大洋デパート。第4回世界選手権(昭46)代表、公式国際試合出場8回(31得点)、25才、163㎝、53K熊本県稲郷中—菊池農高出身

**FP　牧野　涼子**

東京重機工業。第4回世界選手権(昭46)代表、公式国際試合出場8回(11点)、24才、162㎝、59K、秋田県川添中—秋田和洋女高出身

**FP　米　恵美子**

大洋デパート。第4回世界選手権(昭46)代表、公式国際試合出場8回(2点)、25才、161㎝、56K、熊本市立出水中—熊本市立高出身

**FP　三毛　直子**

田村紡績。第4回世界選手権(昭46)代表、公式国際試合出場8回(3点)、24才、163㎝、59K、松阪市立殿町中—松阪女子高出身

**FP　古佐原ひろ子**

東京重機工業。第4回世界選手権(昭46)代表、公式国際試合出場8回(2点)、23才、153㎝、48K、福島県原町市立原町三中—小高農高出身

**FP　島田　夏枝**

大洋デパート。第4回世界女子選手権(昭46)代表、公式国際試合出場8回(14点)、23才、163㎝、52K、熊本県八代郡氷川中出身

**FP　蔵田　照美**

大洋デパート。昭47訪韓全日本実業団選抜代表、22才、163㎝、53K熊本松橋町西部中—菊池農高出

**FP　鳥居　君子**

ブラザー工業。21才、162㎝、58K、富士市富士中—吉原高出身

**FP　山下恵美子**

大洋デパート。20才、160㎝、56K、本渡市本町中—天草農高出身

**FP　高野　晴子**

日本ビクター。20才、152㎝、52K、笠間市東中—笠間高出身

〔注〕選手の略歴は所属チーム、主な国際球歴(海外遠征のみ)、公式国際試合出場、（　）内は同通算得点、年令、身長、体重、出身校の順。

## 資料・過去の世界選手権記録

◇第1回・昭32（ユーゴ）＝日本は不参加、優勝チェコ②ルーマニア③ドイツ④ポーランド⑤デンマーク⑥オーストリア⑦オランダ⑧スウェーデン⑨ルーマニア

◇第2回・昭37（ルーマニア）＝参



GK　小原　名苗



GK　和田　祥子



FP　垂水　秀代



FP　牧野　涼子



FP　米　恵美子



ＦＰ　鳥居　君子



ＦＰ　蔵田　照美



ＦＰ　島田　夏枝



ＦＰ　古佐原ひろ子



ＦＰ　三毛　直子



ＰＦ　山下恵美子



ＦＰ　高野　晴子

加9ケ国、日本初出場

▽予選リーグB組

ハンガリー　17（11−5, 6−3）8　日本

デンマーク　12（7−4, 5−3）7　日本

この結果7〜9位決定リーグへ

▽7〜9位決定リーグ

ポーランド　16（7−5, 9−5）10　日本

西ドイツ　15（7−1, 8−5）6　日本

▽日本選手団・団長出口林次郎、監督高嶋冽、コーチ北川浩、宮原俊隆、マネジャー塩川安賢、視察員亀岡成昌、選手GK篠崎益野（愛知紡）、古谷芳枝（大崎電気）、FP沢山田帆浪（レナウン工業）、FP沢田勝子、磯部昌子、青木悠子、山崎鉎子、塚原米子（以上愛知紡）、宇井敬子、深津久仁子、田村うた子、黒川泰恵（以上大崎電気）、竹本千恵子、太田美紀子（以上レナウン工業）、西村八千代（大洋デパート）

【最終順位】①ルーマニア②デンマーク③チェコ④ユーゴ⑤ハンガリー⑥ソビエト⑦ポーランド⑧西ドイツ⑨日本

◇第3回・昭40（西ドイツ）＝参加8ケ国

▽第1次ラウンド（チェコ）

チェコ　17（9−4, 8−4）8　日本

▽予選リーグA組

チェコ　17（7−1, 10−4）5　日本

西ドイツ　15（8−1, 7−6）7　日本

デンマーク　10（5−4, 5−5）9　日本

ユーゴ　9（5−3, 4−2）5　日本

この結果、7・8位決定戦へ

▽7・8位決定戦

日本　6（4−1, 2−4）5　ポーランド

▽日本選手団・団長兼監督高嶋冽、コーチ宮原俊隆、マネジャー岩崎美栄子、サブマネジャー伊藤せつ子、選手GK古谷芳枝、川崎幸子（以上大崎電気）、FP宇井敬子、笠原喜代子、黒川泰恵、早川晴美（以上大崎電気）、永井昭子、鈴木功子、加藤井子（以上大崎電気）、久蓮松美和子、高山やよい、新保いくこ（以上大洋デパート）

【最終順位】①ハンガリー②ユーゴ③西ドイツ④チェコ⑤デンマーク⑥ルーマニア⑦日本⑧ポーランド

（注）日本は第1次ラウンド（予選）でチェコに敗れたが、本大会出場国に欠員（ソビエトが棄権）があり、繰りあげ出場の幸運を得た。

◇第4回大会は昭和43年11月ソビエトで行われる予定で準備されたが、国際政情が理由で流会となった。日本選手団は小笠是郎氏を監督に役員、選手とも決定ずみだったが、惜しくも桧舞台を踏めずに解散。

◇第4回・昭46（オランダ）＝参加9ケ国

▽予選リーグA組

西ドイツ　10（5−4, 5−3）7　日本

デンマーク　11（4−4, 7−3）7　日本

この結果7〜9位決定リーグへ

▽7〜9位決定リーグ

日本　12（6−7, 6−5）12　ノルウェー
引き分け

オランダ　13（6−9, 7−2）11　日本

▽日本選手団・監督山田計、コーチ宇津野年一、井薫、選手GK北岡千賀（愛知教員ク）、FP枝尾清女、三宅美智子、渡辺須和子（以上大洋デパート）、寺尾由美子、三浦朝子（以上大崎電気）、滝口治代（東京重機工業）、このほかに今回の代表小原（GK）、垂水、牧野古佐原、米、三毛、島田の7選手。

【最終順位】①東ドイツ②ユーゴ③ハンガリー④ルーマニア⑤西ドイツ⑥デンマーク⑦ノルウェー⑧オランダ⑨日本

合 織 糸 ・ 合 織 混 紡 糸



# 田村紡績株式会社

社 長 田　村　正　衛

四 日 市 市 東 茂 福 町 10 ― 17
T E L 0593―65―2156（代表）
郵便番号　5 1 2

## 全日本男子（世界選手権予選代表）選考の準備へ

日本協会・荒川清美理事長は、第8回世界男子選手権アジア予選（対イスラエル、2試合、49年2月14、17日テルアビブ）に出場する選手～48年度男子ナショナル～について、11月の全日本学生選手権（東京）、12月の全日本総合選手権（東京）後の2回に分けて候補選手を発表するよう、近く北川勇喜全日本男子監督と話し合う。

ミュンヘン後、全日本男子のリストアップは行われぬままになっており、ユーゴ戦（9月・東京、京都）も、臨時編成の全日本が対戦していた。これは、モントリオールオリンピック及び今後の世界選手権についてIHF（国際ハンドボール連盟）の動向が不明確であったためである。最近になりモントリオールでの実施（男子12、女子6）が確定、男子の出場国は、開催国（カナダ）と、来春の世界選手権優勝国のほか、残り10ケ国は、ミュンヘン時同よう大陸別予選（昭和50年が有力）によって選ばれることが濃厚という情報を得て、具体的な対策の第一歩を踏み出すことになったものだ。

候補選手の人数、コーチ陣などについてはいっさい未定だが、全日本総合選手権最終日（12月16日）からアジア予選までは、正月をはさんで60日間しかないため、いきなり代表選手（12名）の発表といういろみかたもある。

## 東ドイツとの交流実現か

日本体協は、かねてから東ドイツとの交流を積極的に進めるよう折しようを行っていたが、このほど基本的な合意をみた。

この結果、今後両国のスポーツ交流はすべて両国体協を窓口にして行われる。

また、千葉国体時に日本体協の招きで来日していた東ドイツ体育スポーツ連盟代表・エバルト会長ら5人によって、東ドイツ側が、日本と交流を希望している当座の競技は7競技でハンドボールがふくまれていることも明らかにされた。

日本協会では、世界の最上位にある東ドイツハンドボール界だけに、早急の実現を期待しているが東ドイツ側は、まず、日本の男子または女子ナショナルの遠征を要望したといわれ、来日を望む日本側と食いちがいがある。

日本協会・荒川理事長は非公式ながら「男子は、世界選手権予選でイスラエルに勝ちさえすれば、東ドイツでの本大会で同国と対戦できる。来秋9月頃、女子ナショナルが来日してくれれば理想的だが……」と発言しており、今後のなりゆきが注目される。

実現されれば、日本ハンドボール協会にとって、日本体協の行う国際交流事業にくみこまれるのは日韓高校交歓スポーツ競技会に次いで二番目のものとなる。

## 〃実業団一色〃で遠征

### 日韓男子社会人交流

全日本実連は、さきに発表した第3回日韓男子社会人交流の遠征メンバー（「全日本実業団選抜ジュニア」＝本誌前号既報）のうち、全日本自衛隊連盟所属の2選手と富永勘コーチに代えて、佐々木健一（三景、23才、170cm）、新実俊夫（本田技研、24才、180cm）、佐藤要二（本田技研、24才、180cm）の3選手を送ることになった。

これは、日本協会が全日本自衛隊連盟の選手を含めた当初のメンバーに対して、9月29日の月例常務理事会で「日韓社会人交流は実連の事業として承認しているもので、他の加盟団体が加わるのは好ましくない」という異論をさしはさみ、実連側がそれをうけいれたものである。なお、第3回日韓男子社会人交流は10月27日大邱体育館での慶北クとの対戦を皮切りに29日（対釜山旅客自動車、釜山）、31日(対高麗セメント、光州)、11月2日(対全慶煕大、ソウル)、3日（対全成均館大、ソウル）の5試合が行われる。一行は10月26日大阪発空路で韓国に向かった。

（編集部注）日韓男子社会人交流は45年、住友化学菊木を中心の愛媛クが遠征したのを第1回に、昨年第2回として釜山旅客自動車が来日。「実業団交流」とせず「社会人交流」と呼んでいるのは、韓国側に実連組織がなく、実業団、OB、教員などを一括している内情の違いからだ。日本協会側は、第1回からすべて実連に一任、実質的には〃実業団交流〃とみている。今回は、実連と自衛隊連が、タイアップしてジュニアの合宿（本誌21頁参照）を行ったうえ、選手を選んだため、〃実連一色〃が成らず、日本協会から善処を望まれたものである。

## IFスタデイオン来日か

日本協会は、デンマークの名門「スタデイオン・スポーツクラブ（IF・スタデイオン）」から来春4月に来日、5～6試合を行いたいという意向が示されたと発表した。同クラブ(男子)は、昨年を含めてこれまでデンマーク国内選手権（全国リーグ）に4回優勝、J・フランドセン(187cm)、B・ヨルゲンセン(180cm)、S・ルント（192cm）ら五輪代表を主力にした実力チーム。西ドイツのクラブチーム招待がマンネリ化していることもあり、デンマークチームという新鮮さから、11月の全国会議で前向きに検討されそうだ。

## 安藤、佐野氏帰える

10月8日からブルガリアのバルナ市で開かれていた国際中央審判規則講習会に出席していた日本協会・安藤純光、佐野和夫の両氏は10月20日羽田着の西ドイツ航空機で帰国した。

安藤純光氏(日本協会審判部長)の話　規則の改正については、特に大きなものはなかった。注目の〃45秒ルール〃（編集部注・マイボールになってから45秒間にシュートに持ちこむ）は、試行中のソビエトが〃実験〃してみせたが、すぐに採用されるというものではなく、見送られるままになりそうだ。

## 11月11日に全国会議

日本協会は11月11日午前10時から全国理事会を、同日午後2時から臨時全国評議員会を東京・日本体育協会301会議室で開く。

# 全日本代表選手（候補）かける男子

## 小松市女も登場　今年の全日本総合（12月東京）

今年のチャンピオンチームを決める第25回全日本総合選手権は12月12日から16日までの5日間、東京体育館に、男子16女子12チームが参加して行われるが10月25日までに、別掲の各チームが出場を決定している。

男子は、世界選手権（アジア予選）の候補選手選考の最終機会とみられ、好内容が早くも期待されている。高校チャンピオンの名城大附属（愛知）は、試験のため出場を辞退、そのワクは実連にまわった。

女子は、有力選手が世界選手権で渡欧中のため、トップチームは主力を欠くが、層の厚い各チームだけに、質低下の心配はない。勤務の関係で大洋デパート（日本協会推せん、熊本）が辞退を表明したのは淋しいが、高校界で無敗の小松市女（高体連、石川）や新進・日立栃木（実連、栃木）が登場する。

全国社会人代表は今年から一般A登録が条件となり男子は東日本地区代表として函館有斗ク（北海道クラブ1位）×三春台ク（関東クラブ1位）の勝者。

西日本地区代表は、東海、近畿のクラブ選手権者の間で争われる女子は千葉国体出場クラブのうち、一般A登録をしている室蘭ク（北海道）に出場が打診されている。

大会は男女ともトーナメントのあと、決勝リーグ、女子は4位決定リーグも行う。トーナメントの組み合せは、11月26日に決まる。

○……出場決定チーム……○

【男子】▽日本協会推せん湧永薬品（大阪、前年1位）、大崎電気（埼玉、同2位）▽全日本実連推せん大同製鋼（愛知）、本田技研鈴鹿（三重）、三景（東京）、三菱レイヨン大竹（広島）▽全日本教職員連推せん、大阪イーグルス（大阪）スワロー兵庫▽全日本自衛隊連推せん、海上第三術科学校（千葉）

【女子】▽日本協会推せん　東京重機（東京、前年1位）▽全日本実連推せん　田村紡（三重）、ブラザー工業（愛知）、大崎電気（埼玉）、日立栃木（栃木）▽次年度国体開催地代表　日本ビクター（茨城）▽全国高体連推せん　小松市立女（石川）。この他の代表は未発表。

# 国体の改訂（50年以降）具体化へ……日本協会

日本協会では、昭和50年度から国民体育大会の開催基準要項が改訂されるため、ハンドボール競技の実施についても全面的な検討を加えたいとする執行部の意向にそって、このほど47都道府県及び5加盟団体の理事長（52名）に5項目にわたる意向調査〜アンケート〜を実施した。

10月10日の〆切日までに回答（21名）された意見のなかで注目されるのはほとんどの理事長が、種別参加数を現状のように固定せず、年度ごとのローテート（回転）を希望していること、

成年（19才以上）の部に、教員の部を設けること

実連登録選手参加辞退の検討をせまっていること——などである。

日本協会では、11月11日の全国理事会・評議員会で協議を行い、来春2月の全国会議には、実施要項を決定する予定だ。

### 強い年度参加数回転の希望

〔解説〕昭和50年の三重国体（ハンドボールは四日市市）から、19才を境に、成年、少年の部に大別され、成年の部は競技団体側が必要と認めれば、さらに細分した年令別を布くことや教員の部、青年の部を設けることが認められている。

これまでにも国体のありかたについて、種々の意見が出されていたが、日本協会はすべて49年（茨城国体、ハンドボールは水海道市）までは現行どおりという姿勢を打ち出して、世論をおさえてきた。

それだけに、〝50年以降〟に関する各理事長の意見は、実に多範囲に亘っており、大きな変貌をとげることになるだろう。

しかし、簡単に結論が出るとは思えぬ難題も多い。特に、有力実業団や実連登録者の辞退問題は日本協会も苦境に立たされそう。

アンケートだけからでも有力実業団をもつ県と、もたぬ県で、この問題の賛否はまっこうから対立している、といわれる。

種別参加数の回転については本誌105号（48年1月号）にのった北井晴次氏の投稿を口火にして、大きな拡がりを見せているが、このシステムの採用はほとんど間違いなさそうだ。問題は、50年以降、ハンドボール競技の参加者数として日本体協から何名が割りあてられるかだ。

この人数によって、種別チーム配当数も左右されるわけで、その際、最大の論争点となるのは、国体を普及・底辺第一主義とするか、内容（レベル）重点主義とするかだろう。

11月11日の全国会議の焦点もここに集まりそうな感じである（乙）

〃〃〃〃〃

# 大幅な増加示す

## 日本協会48年度登録

日本協会事務局は、このほど今年度日本協会登録チーム数などについて正式発表した。

それによると、6月末現在、日本協会へ登録手続きした総チーム数は一九〇一。二千台への足がかりをつかむ画期的なものとなった。

前年（一五二二）に比べて、一きょに二七九チームも増加したのは史上初めてのことであり、この内訳は一般男子（教員を含む）一〇〇、同女子一一、高校男子一一一同女子五七、学生女子一。昨年比で減は、わずかに学生男子が一を数えたのみである。

高校の伸びも驚異的だが、一般が男女合わせて一一一の増をみたのは「一般C」新設の影響だろう。

一般Cは男女計一五七で、予想より下廻ったが、日本協会総務企画部では、従来の一般登録チームの多くが、A又はBに残り、Cにまわったチームが少かった、とみている。予算面でこれは大きい。

しかも一般ABの合計（男女）は三〇一で、前年の一般合計（同）二九二を上廻っているのだ。

なお、競技人口（登録名簿記載者延人数）は三二、〇六一名。

## 全日本実業団選手権

# サーキット化を検討

## 実連、来年度実施めざす

全日本実連は、かねてから検討を進めていた全日本実業団選手権のサーキット(各地転戦)化を具体化することになり、来年の第15回大会から実施したい意向である。

これは、9月28日の日本協会月例常務理事会(東京)に招かれて出席した泉正明全日本実連理事長が中間報告として明らかにしたもので、成りゆきが注目される。

全日本実連の計画によると、男女とも、現在「上位リーグ」として一会場に集結、5日間の日程で争っている選手権を、毎週土、日曜を利用して各地を転戦、一会場1～2試合ずつを消化しようとするもので、いわゆる「日本リーグ」システムである。

泉理事長は「選手権はリーグ戦(総当り)が理想である。週休2日制を採る企業が多くなり、その休日を有効に利用すれば、充分、日程をこなしきれると判断した」といっており、すでに有力チームの代表者が再三会合、基本線の確認を得ている。

この日の会議で、日本協会側は、特にその見解を明らかにしなかったが、加盟団体のチャンピオンシップ(選手権)の自主性を認めている以上、全日本実連がこのようなシステムを採ることに、特に反対すべき根拠はない。

しかし、各地へ試合を持ちまわることによる運営上の問題や、日本協会の一部にささやかれている全日本総合選手権の発展的解消による「日本選手権リーグ」との関連などで、まったく障害なしに全日本実連の構想が実現されるとも思えない。

「日本選手権リーグ」については、今のところ机上論を出ず、なに一つ具体化されていないので、今回の計画との"混線"はまずおこり得ないが、最大の課題は、リーグの運行である。

例えば男子の場合、全日本実連の試案では、名古屋、大阪、四日市、広島、横浜、東京などを会場地に予定しているが、当然、運営上の雑件は各都府県協会または各都府県実連が仕切らねばならない。

体育館の借用にはじまって、かなり細部にわたる打合せに時間をかけないと、混乱を招きそうだし、経費についても話し合いが必要だろう。

現在、県実連を組織しているのが千葉、神奈川、愛知、岐阜、大阪、山口など十指に満たないのも不安である。

荒川清美日本協会理事長は年度当初「ビッグカードを地方のファンや競技者に見てもらう機会をつとめてつくりたい」といっており、その線に沿った企画ではあるが、なおいくつかの曲折が予想され、11月11日に予定される全国理事会(東京)の議題となれば、そこで"結論"が出よう。

泉理事長が、月例常務理事会で述べた全日本実業団選手権のサーキット化にともなう理非は次のとおり。

(長所)①土日を利用することで休日を有効に利用でき、会社への負担(労働面での)を少くすることができる

②会期が短縮されることで主管協会の負担が少く、引きうけやすい

③普及上の効果が大きい

④ゲームの密度が高くなることの期待

(短所)①参加チームの旅費負担が大きくなることへの懸念

②主管者が多くなることによるロス

## NHK杯は国際試合に

### どうなる全日本選抜大会

日本協会では、来年度事業の編成を進めているが、大幅な変動が予想されるのはNHK杯(全日本選抜大会)である。

これは、後援のNHK側が、国内トップレベルの向上という所期の目的をはたした、との判断から、大会内容の再検討を荒川理事長に求めたことによるものだ。

日本協会は、6月24日の全国理事会(大阪)で、この問題を執行部に一任したが、基本線としてこれまでのような大会の継続は行わないことを申し合わせている。

NHK側は、国際試合への発展を望んでおり、日本協会はとりあえず、来年度は、単発的な国際カードを編成してNHK杯をかけ、50年度以降に、三国対抗などを企画するものとみられる。

これにともない、全日本選抜大会の処置が新たな課題となっており、いちぢは解消説が強かったが精鋭4強による大会は、運営面でも比較的容易なため、NHKが離れたあとも、大会そのものは存続される可能性がまったくないわけではない。

11月11日の全国理事会で方針がでよう。

# ユーゴ戦の収獲と反省

## ～頂上は高く険しい，だが道は開かれた…～

全日本男子監督
北川勇喜



**① ユーゴが残してくれたもの**

思い起せば、ミュンヘンオリンピックの十三日間で、最も感動的な場面は、金メダルを胸にかかげて誇らしげに両手を挙げたユーゴチームの十二人の美しく雄々しい姿だった。

この素晴しいチームを、そして個々のプレーを日本のハンドボールマンやファンが見たなら、きっとこのスポーツの価値を再認識するに違いない、そう考え、乞い願っていた夢が実現した。しかもこのチームと対戦する日本のナショナルチームの監督に選ばれるという幸運を掴んだ私にとっては、誰よりも得難いものを体験し、数多くの財産をゆずり受けることが出来た。ユーゴチームは数多くのものを残してくれたが、この中で何が一番大きかったか、それは真に当然のことだが、基本がいかに大切かと言うことに尽きる。

身長一八五・八、体重八三・四という体格の優位をフルに生かし、体で押しまくるハンドボールではなく、〝より速く、より正確に、より考えた〟ハンドボールを随所に見せてくれた。このことは、端的に日本のお家芸の速攻に比べ、彼等の方が、はるかに多くの速攻を成功させている点からも顕著である。

パス・アンドゴー……ボールをパスしたら次のポジションにはいれとは、個人戦術の第一条であり、主将のホルバット以下全てのプレーヤーがこの鉄則に常に忠実であった。

ボールを持ったら、全員速く攻撃に移れ、相手がボールを持ったら、全員が素早く守備にはいれとは、チーム戦術の第一条であるが、この点、ユーゴの選手は全員がこの言葉通りに動いた。逆に言えば、彼等のプレーで、我々の知らないプレーは、一つもなかったわけだが、実際コートで展開したプレーは、〝より速く、より強く、より正確に、より考えた〟ハンドボールであり、これがハンドボールだと言うべき数段レベルの高いものであった。この事実を冷静に考えた時に、我々は、ユーゴの残していったものが、どれほど大きいかを知ると同時に我々もモントリオールへのスタートとして基本から考え、根本からやり直す覚悟でひたむきな努力さえすれば、世界の頂点へ立つことが出来るという大きな希望を持つことが出来た。

**② 全日本の今後の課題**

日本の攻撃技術と戦術については、一流であり、世界でも充分通用する。と言う言葉が、過去の遠征に参加した監督や選手の帰国後の開口一番の声であった、本当にそうであっただろうか……。

ボールから自由になることが技術であり、相手から自由になることが戦術であると考えれば、ユーゴ戦で日本の選手がボールに振りまわされ、攻撃の意図やプレーが束縛されて、攻めあぐんだ場面を数々思い出すことが出来るだろう。このことから考えてみてもわかるように、今迄に形成された習慣的な技術（特にシュート）は、世界の一流相手には通用しないと言える。なぜならば、ハンドボールが得点を争うチームボールゲームであるが為に、よい技術を持っていると言うことは、どんな相手に対しても確率の高いシュート技術を持っていることがプレーヤーの必須条件である。その点残念ながら、日本の中で体格の優れたプレーヤーは、日本人に対するプレーが形成され、習慣化されてしまっていることである。即ち、小さな相手に対し小細工せずに自由に打つことが出来るシュートマシンである為に、体格に於いてはるかに優れている大きな相手では、通用しないのも道理である。

今回の対戦で比較的適用したのは、蒲生、木野、佐藤、藤中である。蒲生は、身長一九二センチで体格において外人に劣らぬものが、日本での彼のプレーをそのまま生かすことが出来たし、木野には、外人にないタイミングがあり、佐藤には変則のプレーが、藤中は闘志に裏打ちされたプレーが通用したのである。

従って今後の技術としては、高くて厚い壁に対してのボールテクニックに於ける早さの極限（ミリセカンド）から遅さの極限（タイムリミット）迄の間合の中で相手に応じて変幻自在に駆使出来る個人技術への変遷をしなければならない。

即ち、速く、ながく、強く更に巧みに変化が出来、しかも正確な技術を大型プレーヤーが身につけない限り、世界では勝負出来ないのである。

**③ チームプレー（攻撃）について**

外人選手との一人、一人にせり合いに勝つ技術と戦術の基盤の上に日本独特のクイックコンビネーションプレーを確り、これが習慣化するまで訓練することが課題である。

日本独特のクイックコンビネーションプレーとは、スピードとパワーを基調とした個人技術を組み合わせ、これを平面及び立体面を効果的に使って連続的に展開するプレーを指している。具体的には第一に速攻法の改善である。従来、日本の主武器であった速攻がミュンヘンや今回のユーゴ戦で通用しなかった原因は、小人数の構成によるプレーとアウトナンバー



ユーゴの攻防両面で示した臨機応変のプレーは結局，基本技の確かさを示したものといえる。　（撮影・山口芳則）

する動きが単調（直線的な動きのスピード）であった為である。この点、本誌前号の第一戦技術評で荒川理事長が指摘しているように、日本が速攻を仕掛けると、彼等は両手を大きく拡げながら、後向きで全速力で帰陣して、パスを少しでも遅らせようと努力し、しかも危険なセンターレーンを密集して守り、中央突破させないのが彼等の速攻防御法である。このことをふまえて今後のナショナルチームの速攻法は比較的オープンスペースになる、サイドレーンを有効に使う方法と、センターレーンの密集地帯は、クロスのパターンで攻めることをベースに、このパターンの中で、ディフェンスの状態に対応してプレーのリズムの変化が自在に出来るプレー、即ち、前後左右にゆさぶりながら崩し、このスピードと変化のある動きの中でパスは短く、早く、正確につながれてゴール迄攻撃が間断なく続く連続交差波状展開的な速攻が有効と考えられるので、これを完成しなければならない。

第三に、セットオフェンス時におけるクイックコンビネーションプレーをクリエートし、習慣化させることである。

ゴールの前に立ちはだかる彼等の高くて厚いディフェンスの壁は、今迄のコンビプレーやフォーメーションプレーでは、簡単に破ることが出来ないことが実証された。従って、今後は、チームの共通の攻撃的基礎となっている二人〜三人のコンビネーションプレーをシュートのチャンス迄二つ〜三つ連続プレーし壁にすき間をつくって、そこを突く攻撃コンビネーションを形成しチームに定着させることが必要である。

具体的には、世界を制覇した「松平コンビネーションバレー」のクイック攻撃や時間差攻撃などを導入し、ハンドボールにアレンジしたプレーを、厚い壁の前で二〜三回続けて壁を破る攻撃法を開発し習慣化させることである。

第三は、日本が世界に先がけて開発したスカイプレーを、更に高度なものへと発展させることである。ディフェンスのエアーポケットであるゴールエリア内の空間を忍者の如く、低く高く、縦横無尽に飛び交いプレーしたならば彼等はどうしてこれを守り切るだろう。このように攻撃に於いて、基本的に速いプレーをベースとしてその中に意外性のあるプレーを随所に織り込んだ多彩なハンドボール、これを息つくひまもなく連続展開出来るチームが私の目ざすチーム像である。

**④　防御について**

次に防御法であるが、現在、世界的な傾向にあるゴールエリアラインからフリースローライン迄のスペースをシステマチックに守る方法から脱皮して、オールコート、あるいはハーフコートにわたってインターセプトを狙い激しく早く、めまぐるしい動きの量と質を高めた守りに切りかえる、しかもウィークスペースをつくらないバランスシートのとれた防御法を主体にゲームの局面で相手のリズムを崩す、アサインドディフェンスや、各種のゾーンディフェンスを適時に併用出来るようなチームにする。いわゆる強力なシュートを持つ彼等に対しイージシュートをさせない為に、相手のプレーを制する読みとこれを効果的に生かす鋭いフットワーク、更に動きによって必然的に出来るオープンスペースをカバーする連続フォーメーションを数多く持ったチームに造りあげることが課題である。

以上形態面や機能面の違う外人相手とゲームをして勝つ為には、今迄述べた個人技術や戦術、その基盤の上のチームプレーを習慣化しなければならず、その為には、それなりの手段と長期にわたる練習が是非とも必要である。それなりの手段とは、

①技術の改善
②練習方法の改善
③外国のチーム及びそれに類似したチームとゲームを出来るだけ多くする。

**⑤　体力について**

ハンドボールは、ボールゲームの中でラクビーやアメリカンフットボールまでとはいかないが、身体接触の多いスポーツである。このことから、技術、戦術、スピード、ファイティングスピリットが互角の場合、体格、体力が勝敗を決めるという単純方程式があてはまる競技である。従って、パワーハンドボールの色濃い世界の現状では、各国共、体が大きく体重が重い大型選手を集めることに力を注いでいるはずである。

そこで、日本のナショナルチームも大きくて速くて強くて、うまい者が勝つと言う勝敗の明解な答を肯定し、更に身近な日本男子バレーが世界一の大男を揃えて野望を達成した実績に素直に目を向け出来るだけ多く、大型のプレーヤーを集めて、その選手達に日本人の秀れた体力面での動きの俊敏さ、正確さ、知的な判断力の速さと動作の巧みさを増長発達させることであり、その為のオリジナルな体力づくりのトレーニング法をあみ出すことが大きな課題である

**⑥　まとめ**

最後に、今回のユーゴ戦を契機に新しく出発する日本の男子ナショナルチームは以上のような日本人の身体的特性を反映したハンドボールと更に、日本人の心情に根ざした独得のハンドボールのスタイルを一日も早く確立することを急がねばならない。この目標達成の手段と方法が浮き彫りにされたユーゴチームとの対戦は大きな収穫であったと考える。　（了）

# 私はこう見た



## ユーゴ戦・読者投稿特集

（カット写真はラブルニッチの高打点攻撃）

### 彼我の実力差歴ぜん

さすがに金メダルチームは違うというのが率直な感想であった。

改めて、彼我の実力差を思い知らされ、所せん、日本は〝井の中の蛙〟ではなかったのか、とさえ思う。

もちろん、ミュンヘン時と、今回では、日本側に〝気力の差〟があったのは、いたしかたないところだが、それだけに、つねに手控ることのないユーゴのすさまじさには感銘さえ覚えた。

日本としては、やはり、技術だとか、作戦だとかいうのではなく体力、スピードを養わねばとうてい太刀討ちできまい。金メダルチームを招いて、金メダルの夢が遠のいてしまうのは皮肉だが、日本協会技術指導陣の奮起を期待したい。【東京・多田義夫・26才】

### 感嘆した全選手の読み

ともかく、ユーゴはやることなすこと一桁違っていた。

特に、全選手の持っている展開力（読みの深さ、チームプレーへの徹底度）は、日本選手などとうてい足元へ及ばない感じだ。

シュート一つにしても「多彩」という一言で片づけてしまえないものがある。

全選手が高低、強弱を使いこなす能力をもち、いかなる時にいかなるシュートを放つべきかを知っている。「インサイド・ハンドボール」「読み」のこれこそ真ずいではあるまいか。

しかもパスがまた絶妙ときているのだから手がつけられない。

日本選手は、今後、そうした意味でオールラウンドになるべきであり、異能選手には限界があることを悟るべきだ。【東京・KKK】

### すばらしいディフェンス

以前から機関誌などでさかんにいわれていたことだが、日本、ユーゴの決定的な差はディフェンスであったと思います。

ユーゴは、60分間絶えず動き、スキあらばマイ・ボールにしようという執念があらわれていました。

私はTVで1試合、ナマで2試合見たのですが、いずれの試合でも、彼らは、積極的に詰めるべき時は詰め、引いて固めるべき時は固めていたことが印象に残りました。これは大変なスタミナと、秀れた判断力を要すると思うのですがそこがやはり「世界一」のひとあじ違うところなのでしょう。

しかし、攻撃技術より守備技術は、基礎さえ反復し、忍耐力さえあれば養成できる面もあるのですから、全日本の研究と精進を期待するものです。【大阪・加賀 均・28才】

### 日本も守備力向上を

最良の守備から最良の攻撃が生まれる、という近年の新思想を裏付けたのがユーゴであった。

ユーゴの守備は、まったく一つの糸に結ばれたがごとく、正確かつ堅実で、しかも大たんであった。

相手の攻勢に対して、つねに応変できるチームとしての能力もまたすばらしいものがあった。

こうした裏には、日本とは比べものにならぬほどのキャリア（国際試合経験）があるのだろうが、それよりも、平生の基礎訓れんがものをいっているのではなかろうか。

最近、日本選手の防禦技能はまったく低下している。攻撃の新戦法も結構だが、日本はユーゴのような守りに対する重視を忘れてはなるまい。【名古屋・鷲見一哉】

### 絶妙アルスラナジッチ

誰が巧いといったって、アルスラナジッチにはしびれた。

少しも派手さはないが、そのポジションのとりかた、とび出し、すばやいパスアウト。抜群である。

しかも、味方が攻めている時もつねに緊張している姿にはうたれた。

ディフェンスとの連けいも絶妙だが、これはアルスラナジッチの好リードがあるのではなかろうか。

ハーフタイムに若いニムスにコーチをしていたが、非常に厳しい感じだった。



GKアルスラナジッチの闘志にあふれたプレーはシリーズの圧巻であった。　（撮影・光島磯雄）

GKというものは、チームの闘志の要であり、全軍の士気に、その表情が影響する。アルスラナジッチをみて、私は初めてGKというものをみた思いだ。【横浜・茗貴波】

### パスも巧い L・L砲

来日前から

マスコミなどで宣伝されていたL・L砲だが、私が印象深かったのは、彼らが一本調子の攻撃屋ではなかったことです。

むしろ、彼らのシュートを警戒するディフェンスの裏をかくように再三好パスを送って、味方の得点に貢献していたのは、やはりお国がらを反映したプレーとでもいいましょうか。

パッサーとシューターは一体といわれますが、兼備した名手というのはそうお目にかかれません。（私は、日本では湧永の木野選手一人くらいだと思うのですが）

L・L砲が、力まかせのシュートばかりではなく、アシスタントプレイヤーとしても見せ場をつくっていたのは、今後の日本ハンドボール界に示唆することが多かったと思います。【川崎・飯島みどり・高校OG】

## 異色のプリバニッチ

金メダルに輝やくチームの選手ともなれば、均整のとれた、キリッとしまった体軀の持ち主ばかりと思ったが、いささか太目で、おなかの出たプリバニッチ選手が居たのは意外だった。ところが試合が進むにつれ、彼が、実に敏捷なプレーで攻守に大活躍をしたのですっかり痛快になった。

外見だけでは、とてもスピードなど望めぬ感じだが速攻の主役はつねにプリバニッチである。

機関誌によれば、すでに公式国際試合出場も111だが、彼自身の節制がうかがわれるし、外型よりも当人の技能をしっかり見定めるコーチングスタッフの目の確かさもみごとなものだと思う。【東京・星野達郎・42才】

【編集部注】プリバニッチ選手は身長186㎝体重77㎏、胸囲113㎝、背筋力184㎏、握力右74㎏、左60㎏、垂直とび58㎝、50m走6秒7＝日本協会普及指導部調べ。


「速攻のおじさん」とニックネームをつけられたプリバニッチ選手（撮影・山口芳則）

## 全日本の試合ぶりに思う

待望のユーゴ来日であったが、全日本の試合ぶりには失望した。

私は第1戦をTVで、最終戦を京都でみたが、部分的には健闘したが、総じて実力差歴ぜん、酷言を許されるなら、金メダルの横綱を迎えるには、あまりにも失礼な非力チームであった。

第一にスピードが違う。第二にディフェンス力が格段である。第三に気力で劣る。

この3点はナショナルプレイヤーとして、最低条件ではないのか。にもかかわらず、全日本選手たちは、なに一つ、ファンにアピールさせるものがなく、失望のみを与えた。国情の違いからナショナルプレイヤーの立ち場が苦しいことも判るが、せっかく盛りあがりつつあるハンドボール熱を、最頂点に立つ一流選手の無気力でさましてはならない。【大阪・T・I生】

## 疑問ある全日本の姿勢

いったい、今回対戦した全日本はどのような姿勢でユーゴ戦を迎えたのか。

ハンドボール誌によれば、ユーゴのスノイ監督らは、日本遠征を世界再制覇への一過程として臨んだというが、日本はどうであったのか。

ユーゴの真の実力を引き出すために、どれだけの努力を払ったのか。

今回の場合、ファンの気持ちの大部分は「ユーゴを観る」ことにあったのだから、日本の試合ぶりにさしたる期待をかけていなかったため、批判は生じないであろうが、それにしても、もう少し謙虚にチャンピオンに挑み、必死の戦いぶりをファンにアピールさせるべきであった。【東京・一ファン】

## 若手の登用積極化せよ

ユーゴ対全日本で活躍が相変らず目立ったのは木野、本田両選手である。この二人の精進には敬意を表するが、後続の不甲斐なさのほうを私は〝問題〟にしたい。

日本ハンドボール界は、ミュンヘンをスタートとして、世界の王座を目指したのだが、それにはナショナルチームが、より深く厚い選手層に支えられていなければなるまい。

にもかかわらずベテラン依存で若い力の抬頭がみられぬのは、先行き不安になるばかりだ。

第二の木野、第二の本田を生むための努力を日本協会は積極化すべきであり、ある程度、成績が落ちこんでも、来る世界選手権（アジア予選）には若手全日本を送りこんで欲しい。【東京・中村　薫　28才】

# ラインハウゼンとの2日間

宮川健一郎
（日本協会評議員　茨城県協会々長）

水海道駅は、フランスの片田舎の駅を思わせるような、しゃれた小駅である。最早、駅前の広場には「水と緑のまごころ国体」の歓迎塔が建っている。OSC・ラインハウゼンが東京からバスで発ち正午にはこの広場へ到着する予定だが、すでに十一時から警察のパトカー二台と、署長以下七名の署員が雨の中を待機してくれていた。宿泊する野村屋旅館の通りが一方通行になっているので、反対側から旅館の前まで特別にバスを乗り入れさせてくれるとゆう署長さんの好意もある。バスは雨天のためもあって予定よりおくれ、十二時五〇分に到着した。署長さんを含めて八名の警官はほぼ二時間も駅前に立ちつくしていたことになる。バスには東京から久田常務理事と通訳の一橋大学の先生が同乗してきた。ここでの接待役は市国体事務局の相沢靖夫君。相沢君は広い肩と太った腰を同時にゆすって歩いている。いつも忙しい人で、和歌山国体のときなど、打田町では役場にテープコーダーを忘れ、バスにカメラを忘れ、宿に双眼鏡と土産袋を置き忘れ、その遺失物の回収に大多忙であった。通称アイちゃんで通っている。

バスが選手たちを降して東京へ引返して間もなく、監督のアウフデムグラーベンさんが愛用のギターをバスの中へ置き忘れたことがわかってひと騒ぎが持ち上った。アイちゃんは、本署へ引返しかけたパトカーの一台にひらりと飛び乗り、事情を説明してバスを追跡して貰った。アイちゃんはパトカーを激励してどんどんスピードアップさせ、バスに追いつき、ギターを無事取り戻して旅館に立ち帰った。ラインハウゼンの人たちから大きな歓声が挙った。

この西独からのお客様を迎えるに当っての苦労のひとつは食事であった。水海道市は人口四万足らずの小さな町だからドイツ料理など調理出来る店は一軒もない。アイちゃんは取手市の教会にドイツ人の宣教師が在住していることを確め電話で問い合せて献立表を熱心に作成していたが、クリフ・パウン牧師が献立の大略をしたためた内容を国体事務局宛に送付してくれた。アイちゃんは早速野村屋旅館の若主人の清君の許へ接衝に出向いた。清君はアイちゃんの示した献立表を見ると頭を抱いてふさぎ込んでしまった。然し翌早朝この若主人は食事のことは安心して一切委せろと胸を張った。事情は間もなく解明された。清君の義兄が、大利根カントリークラブの食堂のマネージャーで、かつて東京のドイツレストランで六年間も腕を磨いた経験があり、チーフもまた同様の履歴の持主で、大利根カントリーはドイツ料理に関して自信があったのである。僕は早速車で清君の義兄・新井マネージャーとチーフの並木さんに鄭重に挨拶に行った。二十二日の昼食と夕食二十三日の朝食はすべて大利根カントリーの食堂で調理して野村屋旅館へ定刻までに届けるとのことである。

またひとつ、開会式の選手入場の際に使用する行進曲の選定が問題になった。国体事務局の須藤次長は若いころ音楽家を志望しただけあって、行進曲はドイツの曲目から選ぶべきであると力説した。僕は日本ビクターの岩井工場に出かけ、ワグナーのタンホイザアの一部を試聴したが、歩調がうまくリズムに乗りそうもないので、不採用にした。

市の中心部から一寸入ったところに竹村菊雄さんの邸がある。市にあるただひとつの酒の醸造元で「京の夢」や「富士竜」など地酒の銘酒を造っている。酒がうまいだけでなく、奥さんのみどりさんが料理上手なので、僕はちょくちょくこの家を訪れることにしている。竹村家には月に二度ほど京都から来客がある。新京極に外科の診療所を構えている岩瀬先生だ。竹村さんも岩瀬さんもゴルフの腕前はたいへんなもの。岩瀬さんがわざわざ京から出かけてくるのは実はゴルフのためなのである。この岩瀬先生がたまたま来合せ、飲み合っているうちに行進曲は「旧友」に限ると教えた。戦前、日独の軍艦が相互の国家を訪問したとき、海軍軍楽隊はきまってこの「旧友」を奏したそうである。つまり先生に言わせると、この曲は日独親善の最高のシンボルだそうである。幸い「旧友」は水海道二高の鈴木監督が所有していたので、当日の開会式にはこのレコードを使用した。

水海道に「釜倉屋」とゆう屋号の古い大きな果物問屋がある。この三男の巌君は麻雀が好きでよく夜更かしをし、ここのところおふくろに叱られ放しである。彼はまたハンドボールの大のファンでもある。親善試合当日バーテルス選手が発熱して出場できなくなった。医者の忠告にもかかわらず会場の隅に椅子を並べその上に横になって観戦していた。これをみるや、巌君は保健室へ飛んで行き、毛布の一枚々々を犬のように嗅ぎまわり、臭気を発散しない最も清潔な毛布を選び出して彼女に掛けてやった。また水海道二高の選手たち中の最もきれいなタオルを一本見つけ出し、始終額を冷やしてやった。バーテルスは夜のパーティではすっかり元気になっていた。

翌二十三日、筑波山神社に帰国の無事を祈って参詣し、霞浦湖畔の京城ホテルで昼食をとり、ラインハウゼンチームは東京へ帰って行った。

数日後、久田常務理事から僕宛に一通の手紙が届いた。ラインハウゼンチームの人たちが水海道のみなさんにくれぐれもよろしくとのことであった。特にクリスチーネ・ステファーンはパパ（僕）によろしくとのことだったそうである。クリスチーネは色白のなかなかの美人であった……。

（投稿）

## OSC・ラインハウゼン来日、二つのみかた（読者投稿）

### 非力すぎたOSCR

日本協会がラインハウゼンのようなレベルの低い、観光気分のチームに高いお金をかけたのは、どう理由をつけようが失敗である。

日本側のレベルがはっきり上という場合は、それなりに意味もあるが、私の観た大崎戦（9月18日・駒沢）など、はっきりいってラインハウゼンのやっていたことはハンドボールではない。非力すぎた。

もし仮に、あれが看板どおり西ドイツのAクラスチームであったとしたら、今後は西ドイツの女子は、日本の強化の対象にはならない。むしろ、あのレベルに勝ったことで、日本側が心を休めて、西欧勢を軽視してしまうことになりはしないか。

まじめにやっているならまだよい。

ラインハウゼンのプレーは投げやりで、不快な印象を与えた。

日本協会も、招待するからにはそうした面を来日前にはっきりさせておくべきだ。

東京重機があのチームに負けたのは、どうも解せない（私はその試合を見ていないが）

それとも、まだまだ日本女子界の底は浅いものなのであろうか。

クラブチームの来日や遠征に日本協会が関与するのも、もうそろそろやめてよい時期に来ているのではないか。

日本協会はナショナルチームまたはそれに準じるチームの往来だけをとりまとめるだけでよい。クラブは地方協会や加盟団体に橋渡しするだけに留めたらどうか。ラインハウゼンの来日は、その意味では一つの転機をもたらすこととなろう。【東京・植田修司・元関東学連理事】

### クラブ復活のきっかけに

ラインハウゼンの来日は、たしかに強化面からすれば批判はあるでしょうが、女子のスポーツのありかたという点では、かつてない教訓を残し、意義深かったと思います。

強化の対象として日本を代表する強チームを当てたのは、資料不足で非難されますが、このようなクラブの存在は、これまで活字ばかりで紹介されただけで、その姿に触れたのは初めてです。

前号の機関誌でラインハウゼン側の人たちのいっている言葉は一つ一つ納得がいきますし、日本協会も、こうした女子チームを遠慮なく呼ぶべきです。

それが、ハンドボールを楽しみながらしようとするクラブを増やすことになりましょう。

10月になって、テレビである実業団の練習ぶりを見ましたが、あまりにも勝負中心で、そこに「健康」や「美容」が忘れられているようで、なんともやりきれませんでした。

OGのクラブは減る一方と聞いていますが、ラインハウゼンの来日が、大きな勇気づけになって、OGがいつまでもハンドボールをつづけるようになることが期待されます。

日本協会が、頂点強化中心に事業を進めるのは、それなりに理解できますが、ラインハウゼンのようなクラブについても積極的に紹介して下さい。

OG側にも責任はあります。実業団と試合するのでは勝負にならない、こわされちゃう、などといってはダメでしょう。

しばらくは経費的な面で実業団が相手になってもらい、やがてクラブ対クラブの国際試合ができることを夢みてます【K子】

### 親子や御夫婦も……

ラインハウゼンクラブの主力が奥さん選手であることは、本誌でも紹介されたが、御夫婦、親子もいて、チームのムードはいっそう和やか。

例えばボルヘファ団長の次女が主将のゲールテンさんで、その御主人が助監督。ラインハウゼン男子チームのGKというおしどりだった。また、グラーペン監督が目の中に入れても痛くないといった可愛がりようだったのが愛娘のモニカ嬢。

このほか、ボークホルト選手の御主人はトレーナーで同行したし、バーテルス選手の御主人も、渉外役員のかたわら、地元紙のリポーターとしてコートサイドできかんにカメラをまわしていた。

### 池田夫妻、TVが紹介

ラインハウゼンの来日で、女子選手の〝競技寿命〟が話題となっているが、NHK総合テレビ「スポーツアワー」は9月7日の放送で、日本ビクター監督池田鉄哉さんと同チームの主力・二三恵さん（全日本）夫妻のハンドボールにかける情熱を紹介した。

主婦、会社員、選手、そして後進の指導にあたる二三恵さんの活躍は、在野のOGの目にどう映っただろうか――。

# 小松市女（石川）夏（インターハイ）につぐ快勝

## ～第28回国民体育大会・佐原市～

## 一般は実業団勢（愛知：大同製鋼 東京：東京重機）制す

10月15日から19日までの5日間千葉県佐原市で開かれた第28回国民体育大会ハンドボール競技（5部門71チーム参加）は、地元勢が3種目に準優勝する健闘もあって大いに盛りあがり、近来にない激戦の連続で熱気をよんだ――。

注目の高校の部は、さすがに厳選の10代表とあって、はげしいつばぜり合いとなり、男子は、インター・ハイ優勝の名城大付属を単独で送りこんだ愛知が、準決勝で東京（選抜）に敗れ、余勢をかった東京は6年ぶり3度目の優勝を遂げた。

女子は、夏の女王・小松市女（石川）に、ピックアップチームが次々と挑んだが、自信にあふれた小松市女の堅陣を破れず石川は初の栄冠に輝やいた。

インター・ハイ、国体の二冠独占は史上8校目。北信越代表が国体優勝を遂げたのは第13回（昭33）の高校男子・氷見（富山）以来のこと。

一般の部は予想どおり男女とも実業団勢が強く、男子は愛知（大同製鋼）、女子は東京（東京重機工業）が優勝を飾った。男子は大阪（湧永薬品）の4連勝が、女子は熊本（大洋デパート）の6連勝がそれぞれ坐折する波乱の展開でつめかけたファンを沸かせた。愛知の優勝は13年ぶり3度目、東京の優勝は9年ぶり2度目。大同、重機にとってはともに初。大同はこれで今シーズンNHK杯（6月）、全日本実業団（7月）についで3つ目の全国タイトル獲得である。

教員は、大阪（大阪イーグルス）が圧倒的な強味を示し、4年ぶり7度目、イーグルスとして6度目の優勝。

また、男女総合得点（天皇杯）は、3種目に準優勝した千葉県が首位となり、女子得点（皇后杯）も千葉県の握るところとなった。男女制は（両杯獲得）は史上11度目。

### 高校男子（10チーム）

**東京、名城大付（愛知）降す**

**千葉選抜の健闘光る**

▽1回戦（2試合）

宮城（仙台育英） 14（5－4、9－4）8 香川（選抜）

熊本（選抜） 14（7－4、7－6）10 北海道（函館有斗）

▽準々決勝

東京（選抜） 13（7－5、6－6）11 奈良（選抜）

山口（下関中央工） 13（6－6、4－4、2－1、1－1）12 宮城

千葉（選抜） 11（6－5、5－3）8 石川（選抜）

愛知（名城大付） 18（9－11、9－6）17 熊本（選抜）

▽準決勝

東京 13（9－3、4－8）11 愛知

千葉 13（7－1、6－6）7 山口

▽3位決定戦

山口 15（7－6、8－4）10 愛知

▽決勝

東京 12（6－5、6－3）8 千葉

| | 【千葉】 | 得 |
|---|---|---|
| GK | 亀山（市川学） | 0 |
| | 逆井（清水） | 0 |
| FP | 平野（佐原） | 1 |
| | 染谷（清水） | 1 |
| | 上原（清水） | 0 |
| | 桜木（清水） | 3 |
| | 多田（佐原） | 2 |
| | 大堀（佐原） | 1 |
| | 大塚（清水） | 0 |
| | 秋元（清水） | 0 |
| | 岡田（清水） | 0 |

| | 【東京】 | 得 |
|---|---|---|
| GK | 松下（中大附） | 0 |
| | 吉江（明星） | 0 |
| FP | 佐藤（中大附） | 5 |
| | 竹内（中大附） | 0 |
| | 和智（中大附） | 0 |
| | 谷口（明星） | 4 |
| | 田野（明星） | 1 |
| | 竹下（明星） | 2 |
| | 山内（早大学） | 0 |
| | 北里（東村山） | 0 |
| | 石川（東村山） | 0 |

8 （0） 7MT （1） 12

【後記】 準決勝の東京（選抜）×愛知（名城大附）が最大のヤマであった。東京の主力・中大附属はインター・ハイで名城大附属に敗れ王座への道の明暗を色分けただけに闘志を燃やしてぶっかり、さすがの名城もたじたじとなって終盤の反撃から2点差とするのが精いっぱいだった。熊本（選抜）、奈良（選抜）の健闘もみごと。

男子に関してはピックアップシステムが、ようやく地につき、成果をあげてきた印象を深めた。

### 高校女子（10チーム）

**徳山（山口）愛媛に敗る**

**惜しかった大分選抜**

▽1回戦（2試合）

大分（選抜） 18（7－4、11－1）5 北海道（室蘭商）

愛媛（選抜） 12（2−0、0−1 … 3−5、7−5）11 宮城（涌谷）

▽準々決勝

愛媛 11（1−0、2−1 … 7−3、1−5）9 山口（徳山）

千葉（選抜） 9（6−1、3−1）2 岐阜（選抜）

石川（小松市女） 8（3−1、5−6）7 大分

栃木（選抜） 9（4−5、5−1）6 大阪（選抜）

▽準決勝

石川 8（4−3、4−0）3 栃木

千葉 6（4−3、2−2）5 愛媛

▽3位決定戦

栃木 14（6−3、8−4）7 愛媛

▽決戦

石川 13（9−1、4−0）1 千葉

【後記】小松市女(石川)の試合ぶりが焦点だった。小さく速いパスとフットワークが主武器。むしろオーソドックスで、相手にとっては攻め、守り易いハズだ。各県とも充分に対策をこうじてきたハズだが、小松の鋭い動きは、それらを一まわりも二まわりも上廻った。

基本技のたしかさ、基礎体力のとおとさ。小松は夏にもましてその声価を高めたといえる。

大分東を主力とした大分選抜が小松に劣らぬ力を示した。



小松市女（石川）の二冠獲得は基本技，基礎技術の勝利といえた。（女子決勝。対千葉選抜戦での攻撃）

| 得 | 【石川】 | | 【千葉】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 屋敷 | GK | 伊藤（佐原女） | 0 |
| 0 | 新開 | GK | 高橋淑（八千代） | 0 |
| 0 | 崎川 | FP | 地主（昭和学） | 0 |
| 1 | 島野 | FP | 柳原（昭和学） | 0 |
| 3 | 山際 | FP | 松岡（昭和学） | 0 |
| 3 | 西出 | FP | 塩谷（佐原女） | 0 |
| 2 | 貝野 | FP | 籾山（佐原女） | 0 |
| 4 | 中川 | FP | 木川（明徳） | 1 |
| 0 | 抜 | FP | 奥村（八千代） | 0 |
| 0 | 北村 | FP | 太田（佐原女） | 0 |
| 0 | 南出 | FP | 高橋と（昭和学） | 0 |
| 13 | （2） | 7MT | （0） | 1 |

## 一般男子（30チーム）

### 愛媛（住化菊本）、東京（三景）降す 広島も石川に逆転負け

▽1回戦

神奈川（全神奈川） 26（14−11、12−5）16 京都（京都ク）

千葉（全千葉） 29（13−4、16−5）9 山形（東根球友会）

広島（日新製鋼呉） 30（19−6、11−7）13 宮城（仙台ク）

茨城（自衛隊勝田） 18（11−5、7−12）17 岩手（盛岡商友会）

大阪（湧永薬品） 35（17−6、18−1）7 高知（高知ク）

兵庫（スワロー・ク） 16（7−6、9−8）14 長野（葛尾ク）

東京（三景） 39（24−9、15−4）13 青森（青森ク）

埼玉（大崎電気） 29（10−4、16−6）10 長崎（全佐世保）

愛媛（住友化学菊本） 23（14−5、9−5）10 熊本（本渡ク）

鹿児島（海上自衛隊第1航空群） 26（13−8、13−6）14 北海道（函館有斗OB）

和歌山（丸善石油下津） 17（7−3、10−13）16 富山（氷見ク）

栃木（AOK栃木） 18（14−4、4−5）9 静岡（清商ク）

石川（金沢市役所） 23（15−4、8−9）13 山梨（全山梨）

山口（徳山ク） 棄権 奈良

▽2回戦

愛知（大同製鋼） 34（15−12、19−4）16 神奈川

石川 15（9−7、6−7）14 広島

鹿児島 18（10−10、8−6）16 千葉

大阪 24（13−8、11−9）17 栃木

埼玉 16（10−4、6−4）8 山口

和歌山 25（15−8、10−6）14 茨城

愛媛 13（7−7、6−5）12 東京

三重（本田技研） 29（17−11、12−3）14 兵庫

### 実業団4強勝ち進む

▽準々決勝

愛知 27（17−4、10−7）11 石川

大阪 35（14-8, 21-1）9 鹿児島
埼玉 20（11-2, 9-4）6 和歌山
三重 16（9-7, 7-4）11 愛媛

## 大阪（湧永薬品）4連勝成らず

▽準決勝
愛知 17（10-7, 7-4）11 大阪
埼玉 15（6-4, 9-7）11 三重
▽3位決定戦
三重 13（4-7, 9-5）12 大阪
▽決勝
愛知 22（8-5, 14-8）13 埼玉

| | 【埼玉】 | 得 | 得 | 【愛知】 |
|---|---|---|---|---|
| GK | 下里 | 0 | 0 | 柳川兄 |
| GK | 岩下 | 4 | 0 | 倉谷 |
| FP | 東 | 5 | 2 | 中井 |
| FP | 佐藤章 | 0 | 5 | 松原 |
| FP | 荒井 | 2 | 3 | 花輪 |
| FP | 沢田 | 2 | 7 | 藤中 |
| FP | 前渕 | 0 | 1 | 野田 |
| FP | 坂口 | 0 | 2 | 加藤 |
| FP | 佐藤文 | 0 | 1 | 柳川弟 |
| FP | 谷口 | 0 | 1 | 北村 |
| FP | 飯田 | 4 | 0 | 守田 |

13（2）7MT（3）22

【後記】近頃めずらしく、予想どおり強者の勝ち進んだ大会であった。波乱といえば東京（三景）が愛媛（住友化学菊本）に、広島（日新製鋼呉）が石川（金沢市役所）に敗れた程度。この2試合にしても愛媛、石川の力はかなり高く買われていたのだから番狂せというほどのものでもない。

それだけに準々決勝以降は見応えがあり、実業団4強の揃った準決勝は、リーグ戦とは違い一本勝負ならではの緊迫感にあふれていた。

愛知（大同製鋼）は、完全に他チームを一歩、二歩引きはなした感じ。4大タイトル独占の可能性が強まった。

このほか、三重（本田技研鈴鹿）の復調の自信、埼玉（大崎電気）の復調が目立ち、クラブ勢のなかでは富山（氷見ク）、栃木（AOK栃木）が今年も光った。

## 一般女子（12チーム）

### 熊本（大洋デパート）敗退の波乱
### 茨城の進出目立つ

▽1回戦
山口（徳山高OG）16（7-4, 9-2）6 香川（三本松OG）
福井（全福井）12（8-2, 4-2）4 北海道（室蘭ク）
愛知（ブラザー工業）20（12-4, 8-2）6 兵庫（全甲子園）
茨城（日本ビクター）14（9-4, 5-3）7 福島（東北ムネカタ）
▽準々決勝
茨城 9（5-4, 4-3）7 熊本（大洋デパート）
三重（田村紡）16（4-2, 12-1）3 山口
千葉（全千葉）10（7-0, 3-0）0 福井
▽準決勝
東京（東京重機工業）12（8-3, 4-7）10 愛知
茨城 10（5-4, 5-5）9 三重
東京 14（7-4, 7-1）5 千葉
▽3位決定戦
三重 17（8-3, 9-2）5 千葉
▽決勝
東京 11（5-5, 6-5）10 茨城

| | 【茨城】 | 得 | 得 | 【東京】 |
|---|---|---|---|---|
| GK | 渡辺 | 0 | 0 | 三紙 |
| GK | 鈴木 | 0 | 0 | 杉原 |
| FP | 池田 | 1 | 1 | 牧野 |
| FP | 阿部 | 0 | 2 | 古佐原 |
| FP | 蓮見 | 1 | 2 | 市川 |
| FP | 谷沢 | 0 | 4 | 鈴木 |
| FP | 高野 | 3 | 1 | 生井 |
| FP | 額賀 | 3 | 1 | 菊池 |
| FP | 川崎 | 0 | 0 | 折口 |
| FP | 滝 | 0 | 0 | 渡辺 |
| FP | 加藤 | 2 | 0 | 岡部 |

10（3）7MT（0）11

【後記】女子実業団界（国体の性格上、この表現は不適当かもしれないが……）は、〃戦国時代〃の様相を呈してきた。

茨城（日本ビクター）が、熊本（大洋デパート）に力勝ちしたことで、その印象はより強められている。三重（田村紡）も復調、愛知（ブラザー工業）は上昇機運。

このほか、この大会には出なかったが埼玉・大崎電気もカムバックの態勢をととのえなおしたし、栃木・日立製作所も、関東予選では日本ビクターと延長の末、16―18で惜敗という成長ぶり。

栄冠を持ち帰った東京（東京重機工業）にしても、安閑としてはいられぬ情勢である。

こうした激闘の一方で、有力実業団の〃国体見合せ〃論が、今年もコートサイドでかわされている。競技力を選ぶか、底辺の情熱を選ぶか結論を出すべき時機に来ていよう。

年次，天皇杯，皇后杯
優勝都道府県

| | 天皇杯 | 皇后杯 |
|---|---|---|
| ③昭23 | 大阪 | 大阪 |
| ④ | 大阪 | 岡山 |
| ⑤ | 大阪 | 大阪，岡山 |
| ⑥ | 岡山 | 岡山 |
| ⑦ | 愛知 | 愛知 |
| ⑧ | 北海道，大阪 | 北海道 |
| ⑨ | 大阪 | 大阪 |
| ⑩ | 愛知 | 福岡 |
| ⑪ | 愛知 | 福岡 |
| ⑫ | 愛知 | 愛知 |
| ⑬ | 大阪 | 茨城 |
| ⑭ | 大阪 | 宮城，福岡 |
| ⑮ | 愛知 | 愛知 |
| ⑯ | 東京 | 茨城，愛知 |
| ⑰ | 愛知 | 熊本 |
| ⑱ | ○山口 | ○山口 |
| ⑲ | ○新潟 | 東京 |
| ⑳ | ○岐阜 | 熊本 |
| ㉑ | 大阪 | 熊本 |
| ㉒ | ○埼玉 | ○埼玉 |
| ㉓ | 熊本 | 熊本 |
| ㉔ | ○長崎，埼玉 | 熊本 |
| ㉕ | 大阪 | 大阪 |
| ㉖ | ○和歌山 | 秋田，熊本 |
| ㉗ | ○鹿児島 | 熊本 |
| ㉘ | ○千葉 | ○千葉 |

・○印は開催県
・両杯制定は第3回大会以降

## 教　員（10チーム）

### イーグルス危気なし
### 千葉、後半に力つきる

▽1回戦（2試合）

千葉（千葉教員）33（19―2, 14―5）7 北海道（鶴陵ク）

熊本（熊本教員団）25（14―8, 11―9）17 香川（香川教員）

▽準々決勝

千葉 23（13―8, 19―4）12 岩手（岩手教員ク）

埼玉（埼玉教員ク）22（14―8, 8―5）13 福井（福井教員）

静岡（静岡教員団）20（12―5, 8―6）11 岡山（岡山教員）

大阪（大阪イーグルス）28（17―13, 11―5）18 熊本

▽準決勝

大阪 20（10―5, 10―2）7 埼玉

千葉 17（9―2, 8―5）7 静岡

▽3位決定戦

埼玉 12（5―6, 7―5）11 静岡

▽決勝

大阪 19（14―3, 5―5）8 千葉

【後記】大阪（大阪イーグルス）が文句なく強かった。

各県が、新旧交替に悩み、ベテラン中心の布陣を余儀なくされているなかで、大阪は、スムースに選手を入れ替えてきている。伝統のうけつぎもうまくいっているようだ。クラブチームにとってこれは大きな強味である。

若い千葉（千葉教員）が2位に入った。順当なところだ。

他の8県は、相変らずの選手が相変らずの活躍を示した。「いかにも国体らしい」という声、「他部門に比べて内容に乏しい」という意見。そのまま〃国体ハンドボール〃の悩みでもあろう。

|  | 【千葉】 | 得 | 【大阪】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| GK | 吉田 | 0 | 広川 | 0 |
| GK | 林 | 0 | 本田 | 0 |
| FP | 笠原 | 0 | 高橋 | 3 |
| FP | 松 | 3 | 池本 | 4 |
| FP | 水海 | 0 | 足羽 | 2 |
| FP | 浅原 | 3 | 安達 | 3 |
| FP | 佐藤 | 2 | 市田 | 0 |
| FP | 岩下 | 0 | 河原崎 | 0 |
| FP | 八尋 | 0 | 早川 | 2 |
| FP | 中島 | 0 | 福井 | 5 |
| FP | 稲生 | 0 | 井上 | 0 |

19（1）7MT（2）8

### 両杯とも千葉県に輝やく

▽男女総合（天皇杯）成績①千葉②東京③愛知・大阪⑤石川⑥埼玉⑦三重⑧山口

▽女子総合（皇后杯）成績①千葉②東京・石川④茨城⑤栃木・三重⑦山口・愛媛

○……千葉が第2日で早々と優位に立った。対抗と目された愛知に誤算が生じたことと、2部門優勝の東京も一般男子が無得点で追いつけなかった。





# 〝心技体いちだんと充実〟

## 実連がジュニア合宿

全日本実連はかねてから実業団球界のレベルアップを目的に若手選手の強化策を検討していたが、全日本自衛隊連盟の側面援助をうけて9月10日から15日までの6日間、東京練馬区の自衛隊体育学校で初の強化合宿を行った。

日本協会とは別の角度で加盟団体が傘下の選手強化を独自に進めたのは初めてのことであり、今後の成果が注目される。以下は富永勘氏（日本協会理事）からの合宿リポートである。

○……今回の合宿は、実業団の選手としての心構えの育成、相互の親睦を企るとともに、基本技術をマスターすることが目的で、6日間の自衛隊〝体験入隊〟によって行われた。

参加選手は実業団球界のホープと目される22才以下（昭和26年4月以降出生）の27選手（実連24、自衛隊連3）で中水流、柳川、小松ら全日本ジュニアの顔もみえた。

コーチングスタッフはオリンピックコーチの竹野奉昭氏をヘッドに松岡富夫（本田技研監督）、江名英彦（三景監督）、北村文雄（日本発条監督）氏らのほか井上素行東一敏（ともに大崎電気）の元全日本選手によって編成、指導陣の若さも、実業団球界の特色をあらわすに充分だった。

合宿の日程は10～12日が基礎技術（竹野、松岡）、13日がディフェンス、攻撃の基本（江名、井上）、11、12、15日がパス、キャッチ（東）に分けられ、12日にはポストプレー（北村）を特に念入りに指導した。

○……全員初めての〝入隊〟で時間の厳しさに驚き、独特なペットのとり方に戸惑いぎみだった。宿舎は2個所に分れ一社2名のところは、それぞれ別のグループに入れたため、頭初は緊張が大きかったが、三日目頃から明るさにあふれたものとなった。

○……8時に朝礼、8時半より練習開始。17時まで昼休み1時間半を除き、休む間もなく練習という日課だったが、全員意欲的で夜間は自由参加のゲームにしたが結局は全員が参加、そのファイトに目をみはらされた。

実連、自衛隊連としては、今後も機会をみて、このような企画を積極的におしすすめていくつもりだが、参加選手が、この合宿での体験を活かして、今後いっそうの活躍をされるよう祈ってやまない。

### 参加選手の声

**市川　孝**（本田技研）なんでもよいから一つ、身につけようと思って参加したが、終ってみると、ある程度、自分のプレーに自信がもてた。特にサイドシュートについては自分なりに納得できたし、高校時代には考えられないような人たちのコーチを受けたのも最高でした。

**田中佑次郎**（湧永薬品）基本技術をいかに試合に活かすのか、その目的、理論を身につけられたのは収獲でした。またフェイント、ブロック、マンツウマン、2対2、3対3など地味なプレーをマスタすることの重要さを再認識しました。将来に活かせるプレーを教えていただいたことを感謝しています。

**坂口　健二**（大崎電気）練習では単独チームではみられないプレーもしばしばみられ、考えさせられた。コーチの人達から、日頃忘れ勝ちな基本技をくり返し注意され教えられたのは、たいへんよい勉強になった。チームに帰ってからもこの合宿の毎日を忘れず、心技の向上につとめたい。

**中水流和則**（自衛隊鹿屋）往年の名手が指導を担当、こまかいところまでコーチしてもらえたこと、各コーチ専門のポイントが指導の中心になっていたことは判り易かった。また、実業団におけるハンドボール仲間が増えた。同時にそれはライバルとして腕をみがきあうことにつながると思う。

**末長　裕昌**（武田薬品光）、私たちのチームは大会前に、試合のための練習を行なっていましたが、今回の合宿で得た練習法を是非とりいれ、しっかりとした基礎練習をチームのトレーニングのなかで〝復習〟するつもりでいます。正確なプレーこそ最大の技能であることがよく判りました。

**山川　重徳**（三菱レイヨン大竹）地方にいる私にとって学ぶことの多い合宿でした。自分のチームにいると、なにごとも〝我流〟でプレーに行き詰まりを感じます。例えば一対一の際のステップひとつにしても、今回の合宿で、単に足だけのものではなく、目、上半身など全身の活動であることを再確認しました。

**渡辺　隆**（新日鉄名古屋）自衛隊生活を学び、実行することにより自主生活や仕事を行なっていくうえで貴重な勉強をさせてもらいました。

また機会あれば、もういちどこのような生活を経験してみたいと考えています。もちろんプレーの上でも多くの得る点がありました

**柳川　実**（大同製鋼）日頃からよく言われていることですが、一つのプレーをしっかり身につけるためには、基本のくり返しがいかに大切かよく判りました。選抜された合宿でこのような指導をうけると、それが身にしみて判ります。

**辺見　伸人**（日本鋼管福山）不自由ないきままな生活からはなれ決められた規則に基づいての合宿に参加し、練習、礼儀、コートマナーなどさまざまな体験をすることができました。この貴重な経験を活かし、選手としても、社員としても謙虚な気持ちで物事に接し苦しい時も自分に正直でありたいと思いを新たにしました。

### 実連ジュニア合宿参加選手

○中水流（自衛隊鹿屋）、酒井、末長（ともに武田薬品光）、辺見、渡辺光（ともに日本鋼管福山）、三田、吉田（ともに日新製鋼呉）、山川、岩本（ともに三菱レ大竹）、笹野、若本（ともに神戸製鋼所）、田中（湧永薬品）、市川、豊岡（ともに本田技研）、渡辺隆（新日鉄名古屋）、守田、柳井（ともに大同製鋼）、高橋、林（ともにトヨタ車体）、吉沢布施（ともにセントラル自動車）、○額賀（自衛隊勝田）、西牧（三景）○平野（海上第三術科校）、坂口、前渕、小松（以上大崎電気）。○印は全日本自衛隊連盟所属

# 早稲田、全勝で40シーズンぶりの栄冠
## 2位に法政、中央、日体並ぶ

各地の学生記録

### 関東

◇9月22日～10月21日◇駒沢屋内球技場（1、2部）、駒沢第1球技場（3、4、5部）◇参加1部2部、3部、4部各8校、5部10校。

1部は今シーズンも予想どおり上、下位校の実力差がはっきりしすぎ、わずかに明治の健闘と、慶応が日体に、日大が早稲田に、東京学芸大が法政に善戦した程度だった。

星のつぶしあいの始った第5日（10月12日）以降は、連日二千近いファンが集まり激しい試合がくりひろげられた。

まず、早稲田が中央を後半一気の速攻で5―8から11―8と逆転して優位に立つ好調を示し1勝、日体も、連覇を狙う法政を切り崩した。

一歩のリードを奪った両校のうち早稲田は法政戦も菊池、脇若、川畑らの巧技とGK石橋の堅守で快勝、法政を優勝圏外へ追いやったが、日体は、後半二度のリードを保てず、中央の集中攻撃を許して惜しい星を落とした。

第6日を終って、守備力にまさる早稲田だけが無キズ、中央、日体が各1敗となり、最終日、日体と中央が勝てば史上3度目の「3校優勝」というケースにもつれこむわけだったが、波にのる早稲田は日体を相手に前半20分すぎから、みごとな連続ゴールで主導権を握り、後半16分10―9と迫られたピンチも、すぐに2ゴールして優位をキープ、みごとに全勝を飾り、昭和28年秋以来実に20年（40シーズン）ぶりの優勝を遂げた。通算10度目だが7人制になってからは初めて。

2位には、最終戦で法政が奮起法、中、日体が同率で並んだ。

Bクラスは、明治が優勢とみられながら日大戦を落としたため苦しみ各校とも2勝をあげるのに〝必死〟。結局、最終日、慶応と明治が貴重な勝利をあげて5位、7位は決定戦で日大が東京学芸大を破った。

春季健闘の東京学芸大は、試合運びを覚えられ1勝に留った。

2部は、カムバックを狙う芝浦工大がまずまずの出来で7勝をマーク、初優勝。2位には明星、東京教大が同率から決定戦の末、教大が入った。

3部は駒沢が抜群の力で早々と初優勝を決め、2位は激しいせりあいから立教が決定戦で青山学院を制した。

4部は横浜商大、順天堂の首位争いのあと横浜商大が初優勝。

5部は加盟10校のうち3校がまったく姿を見せず、そのほか棄権するチームが多かったため、全45試合の予定のうち不成立6、不戦勝試合21という状態で興味をそいだ。

優勝は上智、東京経大、千葉大が激戦、上智が7戦全勝で初。

得点王は1部・村田幸男（法政明星高出、50点、初）、2部・嶋田靖（東京教大、富山高出、36点）、3部・田辺幸男（駒沢、駒大高出48点）、4部・滝上徹（横浜商大、富岡高出、42点）、5部・斉藤和彦（上智、上田高出、44点）に決まった。

#### 明治、日体に食い下る

▽1部

法政 29（11―10、18―12）22 日大
中央 35（15―8、20―5）13 慶応
早稲田 23（11―8、12―9）17 明治
日体 24（14―6、10―2）8 東京学芸大
日体 16（7―7、9―6）13 明治
早稲田 21（12―4、9―6）10 東京学芸大
中央 35（17―10、18―6）16 日大
法政 27（16―6、11―4）10 慶応
中央 29（16―6、13―7）13 東京学芸大
日体 17（11―5、6―8）13 慶応
早稲田 20（15―4、5―5）9 日大
法政 31（20―5、11―3）8 明治
中央 19（10―1、9―8）9 明治
日体 18（12―4、6―5）9 日大
法政 24（13―9、11―8）17 東京学芸大
早稲田 38（20―5、18―2）7 慶応

#### 春の覇者・法政つまづく

明治 25（12―6、13―6）12 慶応
東京学芸大 17（10―5、7―8）13 日大
早稲田 15（10―2、5―8）10 中央

| 得 | 【中央】 | | 【早大】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 吉近 | GK | 石橋 | 0 |
| 0 | 山田 | GK | 山田章 | 0 |
| 3 | 山村 | FP | 渡辺 | 4 |
| 1 | 蒲生 | FP | 小松原 | 0 |
| 2 | 村田 | FP | 田中 | 0 |
| 2 | 今間 | FP | 菊池 | 4 |
| 0 | 松本 | FP | 脇若 | 3 |
| 0 | 上村 | FP | 川畑 | 2 |
| 0 | 佐野 | FP | 山川克 | 1 |
| 0 | 藤本 | FP | 山高 | 0 |
| 0 | 戸田 | FP | 明石 | 0 |
| 2 | 大熊 | FP | 泉 | 0 |

15（3）7MT（2）10

（注）中大側に自殺点1

---

関東学生勝敗表（1部）

| | 早 | 法 | 中 | 体 | 明 | 慶 | 日 | 学 | P | 勝 | 分 | 負 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①早稲田 | … | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 14 | 7 | 0 | 0 |
| ②法政 | ● | … | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | 10 | 5 | 0 | 2 |
| ②中央 | ● | ● | … | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 10 | 5 | 0 | 2 |
| ②日体 | ● | ○ | ● | … | ○ | ○ | ○ | ○ | 10 | 5 | 0 | 2 |
| ⑤明治 | ● | ● | ● | ● | … | ○ | ● | ○ | 4 | 2 | 0 | 5 |
| ⑤慶応 | ● | ● | ● | ● | ● | … | ○ | ○ | 4 | 2 | 0 | 5 |
| ⑦日大 | ● | ● | ● | ● | ○ | ● | … | ● | 2 | 1 | 0 | 6 |
| ⑦学芸大 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | … | 2 | 1 | 0 | 6 |

【2部順位】①芝浦工大7戦全勝②東京教大5勝2敗③明星5勝2敗④関東学院4勝3敗⑤国士館2勝3敗2分⑥千葉工大2勝4敗1分⑦東海1勝5敗1分⑧防衛7敗

日体 19（8―7、11―5）12 法政

| 得 | 【法政】 | | 【日体】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 柴田 | GK | 奥川 | 0 |
| 0 | 森田 | GK | 斉藤将 | 0 |
| 1 | 柳 | FP | 細江 | 1 |
| 1 | 長谷川 | FP | 永井 | 1 |
| 0 | 橋本 | FP | 平野 | 1 |
| 0 | 井手 | FP | 田原 | 3 |
| 4 | 川島 | FP | 碧井 | 6 |
| 0 | 荒井 | FP | 橋本 | 3 |
| 0 | 矢島 | FP | 中山 | 3 |
| 5 | 村田 | FP | 菅野 | 1 |
| 1 | 上滝 | FP | 斉藤幸 | 0 |
| 0 | 青山 | FP | 坂本 | 0 |

19（3）7MT（2）12

日大 20（11―8、9―11）19 明治

| 得 | 【明治】 | | 【日大】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 有吉 | GK | 上野 | 0 |
| 7 | 相本 | FP | 古沢 | 1 |
| 3 | 村重 | FP | 西川 | 1 |
| 2 | 指宿 | FP | 上坂 | 6 |
| 4 | 山岡 | FP | 大隅 | 0 |
| 0 | 山根 | FP | 金子 | 3 |
| 1 | 石井 | FP | 小宮 | 3 |
| 1 | 加納 | FP | 潮田 | 6 |
| 1 | 江幡 | FP | 阿部 | 0 |
| 0 | 松本 | FP | 西子 | 0 |
| 0 | 岡部 | FP | 大塚 | 0 |

20（2）7MT（0）19

慶応 18（10―9、8―6）15 東京学芸大

| 得 | 【早大】 | | 【日体】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 石橋 | GK | 奥川 | 0 |
| 0 | 山田竜 | GK | 斉藤将 | 0 |
| 4 | 渡辺 | FP | 細江 | 0 |
| 1 | 田中 | FP | 永井 | 2 |
| 3 | 菊池 | FP | 平野 | 0 |
| 1 | 脇若 | FP | 田原 | 2 |
| 2 | 川畑 | FP | 喜井 | 3 |
| 2 | 山田克 | FP | 橋本 | 0 |
| 0 | 山高 | FP | 中山 | 4 |
| 0 | 山田章 | FP | 平賀 | 0 |
| 0 | 明石 | FP | 菅野 | 0 |
| 0 | 小松原 | FP | 斉藤幸 | 0 |
| 13 | （3） | 7MT | （1） | 11 |

| 得 | 【中央】 | | 【日体】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 古近 | GK | 奥川 | 0 |
| 0 | 山田 | GK | 斉藤将 | 0 |
| 0 | 村田 | FP | 細江 | 0 |
| 2 | 今関 | FP | 永井 | 0 |
| 1 | 山村 | FP | 平野 | 1 |
| 5 | 蒲生 | FP | 田原 | 2 |
| 3 | 佐野 | FP | 喜井 | 4 |
| 3 | 松本 | FP | 橋本 | 4 |
| 0 | 上村 | FP | 中山 | 1 |
| 1 | 戸川 | FP | 斉藤幸 | 0 |
| 1 | 大熊 | FP | 坂本 | 0 |
| 0 | 松下 | FP | 後川 | 0 |
| 11 | （1） | 7MT | （4） | 12 |

中央 16（10－6, 6－6）12 日体

| 得 | 【早大】 | | 【法政】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 石橋 | GK | 森田 | 0 |
| 0 | 山田章 | GK | 柴田 | 0 |
| 1 | 渡辺 | FP | 長谷川 | 1 |
| 3 | 田中 | FP | 井手 | 1 |
| 7 | 菊池 | FP | 村田 | 2 |
| 3 | 脇若 | FP | 柳 | 1 |
| 2 | 川畑 | FP | 橋本 | 1 |
| 3 | 山田克 | FP | 上滝 | 2 |
| 0 | 山高 | FP | 川島 | 1 |
| 0 | 明石 | FP | 荒井 | 0 |
| 0 | 小松原 | FP | 矢島 | 0 |
| | | FP | 青山 | 0 |
| 19 | （1） | 7MT | （0） | 9 |

早稲田 19（11－8, 5－4）9 法政

| 得 | 【慶応】 | | 【学芸】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 米内 | GK | 斉藤 | 0 |
| 0 | 岡田 | FP | 金村 | 0 |
| 2 | 立田 | FP | 樋口 | 6 |
| 6 | 福地 | FP | 金子 | 2 |
| 0 | 木村 | FP | 大高 | 0 |
| 9 | 川崎 | FP | 村田 | 4 |
| 0 | 西 | FP | 服部 | 2 |
| 0 | 細江 | FP | 谷口 | 0 |
| 0 | 浅野 | FP | 内記 | 1 |
| 1 | 西村 | FP | 江成 | 0 |
| | | FP | 中沢 | 0 |
| 18 | （1） | 7MT | （2） | 15 |

| 得 | 【法政】 | | 【中央】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 森田 | GK | 吉近 | 0 |
| 0 | 柴田 | GK | 山田 | 0 |
| 3 | 柳 | FP | 山村 | 2 |
| 2 | 長谷川 | FP | 佐野 | 3 |
| 2 | 橋本 | FP | 蒲生 | 1 |
| 4 | 井手 | FP | 村田 | 0 |
| 2 | 川島 | FP | 今関 | 1 |
| 0 | 荒井 | FP | 松本 | 2 |
| 9 | 村田 | FP | 上村 | 2 |
| 0 | 矢島 | FP | 大熊 | 2 |
| 0 | 青山 | FP | 戸田 | 0 |
| 1 | 上滝 | FP | 松下 | 1 |
| 23 | （4） | 7MT | （2） | 14 |

法政 23（12－8, 11－6）14 中央

早稲田 13（4－6, 9－5）11 日体

慶応 16（8－5, 8－7）12 日大

明治 14（9－4, 5－4）8 東京学芸

▽7・8位決定戦

日大 20（7－9, 13－5）14 東京学芸

▼2部

明星 15（10－4, 5－7）11 国士館

関東学院 18（12－4, 6－7）11 防衛

芝浦工大 14（7－6, 7－7）13 千葉工大

東京教大 23（14－5, 9－12）17 東海

東京教大 18（9－8, 9－4）12 千葉工大

国士館 21（15－10, 6－7）17 防衛

芝浦工大 28（13－7, 15－5）12 東海

東京教大 不戦勝 防衛

芝浦工大 14（10－6, 4－4）10 明星

関東学院 26（11－9, 15－3）12 東海

東京教大 22（14－6, 8－6）12 明星

国士館 15（5－12, 10－3）15 東海 引き分け

芝浦工大 27（15－6, 12－3）9 防衛

関東学院 20（12－5, 8－4）9 千葉工大

東京教大 19（12－5, 7－6）11 関東学院

明星 15（6－7, 9－3）10 千葉工大

東海 不戦勝 防衛

芝浦工大 22（14－9, 8－2）11 国士館

千葉工大 18（9－4, 9－5）9 防衛

明星 10（6－4, 4－4）8 東海

国士館 19（12－6, 7－10）16 東京教大

芝浦工大 16（11－7, 5－7）14 関東学院

千葉工大 21（11－4, 10－5）9 東海

明星 13（6－9, 7－2）11 関東学院

## OB、現役一体の優勝（ワセダ）

○……早大・渡辺隆主将の高々とかかげる優勝杯が、照明を反射してキラリと光を破つ。

その閃光をうけとるかのように、スタンドの一角には歓声をあげ、手を振って応える30人近い、OBの姿があった。

早稲田ファミリーに、優勝杯が還ってきたのである。

○……早稲田は、慶応と並んで関東学生のなかでは、もっとも強大なOB組織をもち、結束を誇っている。彼らの願いはただ一つ〝優勝〟である。その執念は、むしろ、彼らの現役時代以上ではないか、とさえ思えるほどだ。

○……優勝を願うがあまり、OBたちは、時には過酷なほどの叱声をとばしもした。

OBの毒舌の前に、若い選手たちが、感情を高ぶらせたことも少なくない、と聞く。

だが、彼らは卒業すると、ためらうことなく、優勝を願うOBグループの一員になる。先輩と呼ばれるようになって、初めてOBの情熱と暖かさが判るからだ。そこに〝早稲田一家〟のよさがある。

○……早稲田の勝因はディフェンスの強さ――と各校の監督は口を揃えている。

チームワークが、その強さを倍にも三倍にもしたようだ。

渡辺、石橋、小松原、田中ら4年生が新人生の時、早稲田は2部であった。

OBたちが、必死になって「なんとかしなくては――」と思っていた時でもある。

○……45年秋、1部へ返り咲き以後6シーズン連続Aクラスを確保したが、中央、日体、法政らのカベを突き破れずに終った。

しかし、シーズン毎に、地力を貯えていることは誰の目にも明らかだった。その力が一気に爆発した。この4年間、語り合い、磨き合った結晶である。それは35年の伝統の輝きでもあった。

（杉山）

【カット写真は全勝を決めた対日体大戦。タテジマが早大】

明星 13（7―6 6―5）11 防衛
関東学院 16（10―5 6―8）13 国士館
芝浦工大 10（8―5 10―3）8 東京教大

| 得 | 【芝浦】 | | 【教大】 | 得 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 0 | 吉田 | GK | 上原 | 0 |
| 0 | 黒田 | FP | 上井 | 2 |
| 0 | 古川 | | 村松 | 0 |
| 2 | 押切 | | 嶋田 | 2 |
| 4 | 斉田 | | 藪田 | 1 |
| 1 | 新井田 | | 中村 | 0 |
| 0 | 安中 | | 川原 | 0 |
| 3 | 柳沢 | | 竹内 | 1 |
| 3 | 柳原 | | 佐藤 | 0 |
| 5 | 村田 | | 浜田 | 2 |
| 0 | 舛屋 | | 西川 | 0 |
| 18 | （0） | 7MT | （0） | 8 |

国士館 13（7―7 6―6）13 千葉工大

▽2位決定戦

東京教大 12（5―7 7―4）11 明星

▽3部

立教 14（分）14 青山学院
千葉商大 16（分）16 都立大
駒沢 22―10 一橋
成蹊 14―9 東京工大
成蹊 18―12 都立大
東京工大 21―15 千葉商大
駒沢 11―10 立教
青山学院 24―6 一橋
東京工大 13―4 一橋
青山学院 21（分）21 千葉商大
駒沢 17―13 成蹊
立教 20―14 都立大
立教 18―13 千葉商大
一橋 18―15 成蹊
東京工大 15（分）15 青山学院
駒沢 24―13 都立大
一橋 不戦勝 千葉商大
成蹊 13―9 立教
駒沢 16―11 東京工大
青山学院 23―10 都立大
都立大 15―11 東京工大
千葉商大 19―14 成蹊
駒沢 12―11 青山学院
立教 20―11 一橋
青山学院 20―11 成蹊
立教 20―21 東京工大
都立大 16―7 一橋
駒沢 27―16 千葉商大

▽2位決定戦

立教 19―3 青山学院

【順位】①駒沢7戦全勝②立教4勝2敗1分③青山学院4勝2敗1分④成蹊3勝4敗⑤東工大・都立大2勝4敗1分⑦一橋2勝5敗⑧千葉商大1勝4敗2分

## 横商大、順天堂せりあう

▽4部

横浜商大 17―15 順天堂
東大 19―14 武蔵工大
独協 20―14 茨城大
専修 19―17 明治学院
順天堂 20―10 明治学院
横浜商大 22―12 茨城大
武蔵工大 16―10 独協
専修 13―10 東大
順天堂 19―13 専修
東大 29―5 茨城大
武蔵工大 19―17 明治学院
横浜商大 35―18 独協
横浜商大 16（分）16 武蔵工大
専修 17―7 独協
茨城大 24―16 明治学院
順天堂 18―17 東大
東大 24―10 明治学院
武蔵工大 14―7 茨城大
横浜商大 18―12 専修
順天堂 16―12 独協
独協 ― 明治学院
横浜商大 25―14 東大
茨城大 21―7 専修
順天堂 19―15 武蔵工大
東大 15―12 独協
順天堂 27―21 茨城大
横浜商大 30―24 明治学院
専修 12―11 武蔵工大

【順位】①横浜商大6勝1分②順天堂6勝1敗③専修・東大4勝3敗⑤武蔵工大3勝3敗1分⑥茨城大2勝5敗⑦独協2勝5敗⑧明治学院7敗（6、7位は得失点差）

## 半数が不戦試合 優勝は上智

▽5部

東京経大 不戦勝 山梨大
千葉大 不戦勝 北里
東京理科大 29―9 東邦
上智 17―12 東京写真大
神奈川大 不戦勝 東京農工大
東京経大 不戦勝 北里
千葉大 不戦勝 東邦
東京理科大 不戦勝 北里
上智 不戦勝 東京農工大
東京経大 不戦勝 東京写真大
千葉大 不戦勝 山梨大
東京理科大 不戦勝 東京農工大
神奈川大 30―9 東邦
神奈川大 不戦勝 山梨大
上智 不戦勝 北里
東京経大 20―5 東邦
東京写真大 不戦勝 北里
千葉大 不戦勝 東京農工大
上智 21―16 神奈川大
東京経大 不戦勝 東京農工大
東京写真大 不戦勝 山梨大
上智 17―10 東邦
千葉大 18―12 東京写真大
上智 不戦勝 山梨大
神奈川大 21―13 東京理科大
東京理科大 18―13 東京写真大
東京経大 14―12 神奈川大
上智 20―12 千葉大
東京写真大 不戦勝 東京農工大
東京経大 18―15 東京理科大
上智 20―10 東京理科大
神奈川大 15―14 東京写真大
東邦 不戦勝 東京農工大
千葉大 17―5 東京経大
千葉大 23―10 東京理科大
神奈川大 不戦勝 北里
東京写真大 不戦勝 東邦
上智 19―11 京都経大
千葉大 21―17 神奈川大

東京理科大×山梨大、東京農工大×北里、東邦×北里、東邦×山梨大、東京農工大×山梨大、北里×山梨大の試合は両校棄権のため不成立。

【順位】①上智9戦全勝②千葉大8勝1敗③東京経大7勝2敗④神奈川大6勝3敗⑤東京理科大5勝4敗⑥東京写真大4勝5敗⑦東邦1勝6敗2棄権⑧東京農工大、山梨大、北里棄権

### 秋季優秀選手

〔男子〕
K 石橋（早）初
吉近（中）②
F 菊池（早）②
脇若（早）②
柳（法）初
村田（法）②
蒲生（中）初
田原（体）初
喜井（体）②

〔女子〕
K 前島（東）②
F 西田（東）②
橋（東）②
岩本（体）②
小林（体）初
畑中（教）②
山田（学）初

○内は選出回数

## 芝浦工大、戻れず

▼関東学生秋季男子各部入れ替え戦（10月26日・駒沢）○内は順位

▽4～5部

上智（5部①）21―13 明治学院（4部⑧）
千葉大（5部②）21―14 独協（4部⑦）

▽3～4部

横浜商大（4部①）20―19 千葉商大（3部⑧）
順天堂（4部②）29―10 一橋（3部⑦）

▽2～3部

駒沢（3部①）15（6―6 9―7）13 防衛（2部⑧）

▽1～2部

東京学芸大（1部⑧）14（6―5 8―2）7 芝浦工大（2部①）

日大（1部⑦）×東京教大（2部②）、東海（2部⑦）×立教（3部②）の2試合は10月31日に行われる予定。

**スピード出世の駒沢大**

○……駒沢大の快進撃が話題になっている。

去年の秋に新加盟して、いきなり5部優勝と4部昇格、今年の春には4部優勝と3部昇格、そして今シーズン、3部優勝を飾ったあと、入れ替え戦でかつての1部校防衛大を破り、来シーズンからの2部入りを決めてしまった。順風満帆とは、まさに このことだろう。

○……「1シーズン一部ずつあがっていけば……」とは、よく新加盟校や、下部校関係者の言うことばだが、そう簡単にコトが運ぶものではない。駒沢大は、あざやかにそれをやってのけ、しかも、登録メンバーに4年生は一人もいない。現有勢力そのままで来年も戦えるのだ。学連委員たちは「2部でもかなりのところまで行くだろう」と言っている。

○……防衛との入れ替え戦（10月26日）は、ちょうど東都大学野球で同大野球部が6度目の優勝を決めた日とぶつかり、気嫌をよくした学生や付属高校の生徒が会場へ押しかけてたいへんな騒ぎ。

「来春は2部から1部へ、そして秋には1部で上位を狙おう」と選手や関係者は快気炎をあげていたが、けっして、それが夢だけに終りそうにないことを、この日の駒沢の試合ぶりは示していた。

# 東女体、日体、学芸大 三校で優勝分けあう

**関東（女子）**

◇9月22日～10月21日◇駒沢屋内球技場◇参加 5校

第一日、東京学芸大が、後半、4－6の劣勢をはね返し、安藤の連続得点などで日体に逆転勝ちするという波乱の幕あけだった。いきなり難関を通りこした東京学芸大は、優勝へ大きく前進したかにみえたが、第二日東京女体大戦では、つねに後手にまわり、後半3分4－4と追いつきながら、そのあと3ゴールを失って敗れた。

勢いづいた東京女体大は、このあと着実に勝ち点をあげ、第4日の東京教大戦で初の春秋優勝を確定させた。

1敗を守る日体、学芸大もそのあと取りこぼしなく進め、最終日日体が東女体大を破れば、史上初の3者優勝というケースになり、日体は立ちあがりからスパート、一方的な試合運びで快勝し、自からの優勝とともに、東京学芸大をも浮上させた。

東女体大は2シーズン連続2度目、日体は2シーズンぶり27度目、東京学芸大は初優勝だが、前身の東京第一師範は23年春に優勝しており、これを勘定に入れると25年ぶり2度目ということになる。

期待された東京教大、日女体大は好選手を揃えていたがスピード、体力で上位3校に一歩をゆずった。

なお、得点王は、21ゴールをあげた山田美代子選手（東京学芸大栃木女高出）に決まった。

**東京学芸大、日体降す**

東女体大 22（9－2、13－3）5 日女体大

東京学芸大 10（6－3、4－5）8 日体

| | 【日体】 | 得 | 【学芸】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| GK | 鈴木 | 0 | 高橋 | 0 |
| GK | 長谷川 | 0 | | |
| FP | 岩本 | 1 | 山元 | 0 |
| FP | 小林 | 1 | 初見 | 0 |
| FP | 西尾 | 0 | 安藤 | 4 |
| FP | 坂上 | 0 | 伊藤 | 0 |
| FP | 坂本 | 3 | 奈倉 | 3 |
| FP | 菅井 | 1 | 斉藤昭 | 1 |
| FP | 松本 | 1 | 山田 | 2 |
| FP | 小田 | 0 | 樋口 | 0 |
| FP | 木元 | 1 | 星野 | 0 |
| FP | 藤山 | 0 | 永沢 | 0 |

10（0）7MT（3）8

東女体大 7（3－2、4－3）5 東京学芸大

| | 【学芸】 | 得 | 【東女】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| GK | 高橋 | 0 | 前島 | 0 |
| GK | | | 鍋田 | 0 |
| FP | 山元 | 0 | 西田 | 2 |
| FP | 初見 | 1 | 赤岸 | 1 |
| FP | 斉藤昭 | 1 | 篠倉 | 1 |
| FP | 奈良 | 0 | 高橋 | 1 |
| FP | 永沢 | 2 | 橋 | 1 |
| FP | 伊藤 | 0 | 田中 | 0 |
| FP | 大野 | 0 | 野口 | 1 |
| FP | 山田 | 0 | 松岡 | 0 |
| FP | 樋口 | 0 | 高須賀 | 0 |
| FP | 安藤 | 1 | 長崎 | 0 |

7（0）7MT（0）5

東京教大 14（4－5、10－1）6 日女体大

| | 【教大】 | 得 | 【日女】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| GK | 坂梨 | 0 | 川菅川 | 0 |
| GK | | | 水上 | 0 |
| FP | 畑巾 | 5 | 下風 | 0 |
| FP | 橋本 | 3 | 上田 | 1 |
| FP | 松井 | 3 | 高田 | 0 |
| FP | 白鳥 | 3 | 武内 | 2 |
| FP | 秋山 | 0 | 竹内 | 0 |
| FP | 上屋 | 0 | 曽我部 | 2 |
| FP | 横田 | 0 | 渡辺 | 0 |
| FP | 中島 | 0 | 青木 | 0 |
| FP | 吉本 | 0 | 佐々木 | 0 |
| FP | 西山 | 0 | | |

5（0）7MT（3）14

日体 22（11－1、11－2）3 日女体大

東京学芸 12（7－3、5－2）5 東京教大

東体女大 12（6－1、6－1）2 東京教大

東京学芸大 20（9－5、11－5）10 日女体大

日体 12（8－3、4－3）6 東京教大

日体 11（4－3、7－1）4 東女体大

| | 【東女】 | 得 | 【日体】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| GK | 前島 | 0 | 鈴木 | 0 |
| GK | 鍋田 | 0 | | |
| FP | 西田 | 0 | 岩本 | 4 |
| FP | 赤岸 | 0 | 小林 | 1 |
| FP | 篠倉 | 0 | 坂本 | 3 |
| FP | 高橋 | 4 | 木元 | 0 |
| FP | 橋 | 0 | 藤山 | 1 |
| FP | 田中 | 0 | 淡路 | 0 |
| FP | 野口 | 0 | 坂上 | 0 |
| FP | 松岡 | 0 | 菅井 | 0 |
| FP | 高須賀 | 0 | 松本 | 2 |
| FP | 長崎 | 0 | 小田 | 0 |

11（1）7MT（2）4

【順位】①日体・東女体大・東京学芸大3勝1敗④東京教大1勝3敗⑤日女体大4敗

**多い単独優勝を望む声**

○……女子史上初めての三すくみ。それというのも、関東学連には〝決定戦〟を行うのは、入れ替え戦に関係する時のみで、そのほかは「同成績、同順位」という申し合せがあるからだ。

春の優勝校・東女体大は、第4日3勝目をあげた時点で〝連勝〟が確実となり、最終戦で日体が東女体大を大破したため、日体ばかりか、東京学芸大にも優勝がころがりこんだ。

○……「三者優勝」のアナウンスに場内は歓声とも嘆声ともつかぬざわめきがおこったが、ファンの間では、優勝決定戦がムリなら、やはり得失点差なり、三校間の得失点差などで「優勝」を一つにしぼるべきだ、との意見が支配的。

ちなみに得失点差だと日体、東女体大、東京学芸大の順、三校間得失点差だと日体、東京学芸大、東女体大の順になる。

なお、男子では昭和16年春（日体、慶、早）と21年春（早、文理＝東京教大、日体）の2回、3校優勝という記録がある。

**早大の優勝回数**

関東学連は、早稲田の通算優勝回数を9回と発表したが本誌の調べでは昭16春、21春、22春、同秋、23春、24春、25秋、28春、同秋、48秋の10回。関東学連のプログラムは28春が日体とされている。読者の資料提供を待ちたい。

# 金沢工大、6連勝飾る
## 初の「6校リーグ」を実施

### 北信越

◇9月14～16日◇長野・信州大体育館◇参加　6校

39年秋創立以来10年目の大会。宿願の各校総当り（リーグ戦）を初めて実現させた。

各校とも、3日間で5試合というハードスケジュールだったが、ムードはいちだんと盛りあがり、しかも、今季は特に傑出したチームがなく好試合が連続した。

第1日で1勝した富山大、金沢工大、福井大を中心に優勝争いが展開されたが、中でも金沢工大、福井大が安定した攻守をみせた。

第2日、金沢工大が2勝を積みあげたのに対し、福井大は信州大戦で、前半ダブルスコアをとりながら、信州大の追撃をうけて逆転負けという波乱があった。

最終日、優勝をかけた金沢工大―福井大戦は福井大が先行、金沢工大もよく追って、結局引き分けに終わり、金沢工大が辛くも首位を確定。46年春以来6シーズン連続通算7度目の優勝を決めた。同校の春秋連ばは3年間連続。

3位以下では、当番校の信州大の健闘が光った。（川瀬善孝・北信越学連委員長）

富山大 25（17－7, 8－5）12 金沢美術工芸大
金沢工大 19（11－5, 8－6）11 信州大
福井大 16（7－6, 9－4）10 金沢大
金沢工大 24（14－0, 10－3）3 金沢美術工芸大
福井大 12（5－6, 7－3）9 富山大
金沢大 11（7－5, 4－5）10 信州大
金沢工大 11（3－3, 8－2）5 富山大
金沢大 15（8－4, 7－7）11 金沢美術工芸大
信州大 13（8－2, 5－10）12 福井大
富山大 14（8－1, 6－2）3 金沢大
金沢工大 7（5－3, 2－4）7 福井大　引き分け
信州大 13（7－6, 6－2）8 金沢美術工芸大
金沢工大 17（10－6, 7－3）9 金沢大
福井大 29（18－6, 11－2）8 金沢美術工芸大
富山大 11（5－3, 6－5）8 信州大

【順位】①金沢工芸大4勝1分②福井大3勝1分1敗③富山大3勝2敗④信州大・金沢大2勝3敗⑥金沢美術工芸大5敗

### ファンが選ぶ優秀選手
#### 全日本学生選手権

今年の全日本学生選手権（11月20～24日・駒沢、次頁参照）を主管する関東学連では、大会を盛りたてる一策に、「ファンが選ぶ優秀選手」を企画している。

これは、期間中、有料入場した観衆に用紙を渡し、参加選手のなかから優秀と思われる選手を投票してもらい、最高得票の男女各1名を表彰というもの。

〝ファン投票〟とは別に、選考委員による優秀選手も選出されるが、ファンの目が、どのような選手をとらえるか興味深い。

日本ハンドボール界で、このような企画は、今春3月女子実業団選抜大会で、ファンアピール賞（鳥居君子選手（ブラザー工業）が受賞）が設けられたことがあるが、ファン投票という形式は史上初めて。このほか、関東学連では、大会運営資金を得るため、記念トレーニングシャツの頒売も決めている。

### 関西は大体大
#### 女子で武庫川女が初

【速報】関西学生秋季リーグは10月28日、男子一部と女子の全日程を終え、男子は、大阪体大が最終戦大阪経大を16－14で破り、貴重な勝ち星をあげ、4シーズン連続4度目の優勝。以下、大阪経大、京都産大、同志社、大阪大、甲南京大の順。

女子は、武庫川女が大阪体大を8－3で破り、4連勝めざす甲子園短大とは5－5で引き分けて無敗を遂げ、宿願の初優勝を飾った。以下、甲子園短大、大阪体大、大阪教大、大阪薬科大の順。

＝詳報次号

### 早大、慶大に3連勝

第21回早慶定期戦は9月16日午後1時から東京・早大記念会堂に約千二百人のファンを集めて行われ、注目の現役戦は早大が地力勝ちして3連勝、通算成績も13勝7敗1分と差を拡げた。

▽高校戦
慶　応 16－16 早大学院

▽超OB戦
稲門ク(早) 12－7 三田ク(慶)

▽OB戦
稲門ク 30－15 三田ク

▽現役戦
早稲田 23（12－7, 11－7）14 慶　応

# 関東4強に大阪の両雄有力
## ～全日本学生選手権（11月 東京）展望～
## 女子も実力伯仲の混戦

世界男子選手権アジア予選の候補選手選考に大きな意味をもつとみられる第16回（女子第9回）全日本学生選手権は11月20日から24日まで東京・駒沢屋内球技場を主会場に行われる。参加するのは各地学連の推せんをうけた男子32女子14校。組み合せをみながら優勝の行方を探ってみた。（編集部）

▼男子、早稲田、法政、中央、日体の関東4強、大阪体大、大阪経大の関西両雄、この6校の前評判が高い。

ところが、このうち法政×大阪体大が1回戦で、中央、大阪経大も順当なら2回戦で激突する。序盤にこの2カードが組まれたため大会はハナから盛りあがりそうだが「いささかもったいない」というファンの声があるのも事実だ。

6連勝をめざす日体は比較的楽なクジである。早稲田も、侮れぬ相手は続くが、秋季リーグでみせた気力なら、まずつまづきはあるまい。

準決勝は日体×中央・大経大、早稲田×法政・大体大となるわけだが、一段階前のベストエイト（準々決勝）では、明治、京大、名城、九州産大、広島修道大（旧・広島商科大）、京都産大あたりがからんでくる。

いずれも、攻守によくまとまっているものの迫力という点で、トップクラスに見劣りする。

ただ、一本勝負というところに軽視できぬ面がある。各校とも、おそらく6強との対戦に秘策をもち、闘志をこの一戦にかけてくるだろうから、なおさらだ。

実業団勢が大きく張り出し、学生界の低迷がささやかれているだけに、準々決勝あたりで一波乱も二波乱もおきる"内容"が欲しい。

### 夢でない関西同士の決勝

準決勝の顔ぶれが日体、中央、早稲田、法政と、関東勢が揃うようだと、リーグでの得手、不得手が微妙に作用しそう。日体は中央に苦手意識をもっているし、法政も早稲田はやりにくい相手。

これがさらに、関西がらみになると今年は、必ずしも"関東上位"と言えぬだけに球趣はいっそう高まる。

東西対抗（9月、名古屋）で、西軍が4年ぶりに快勝したのも、関西側の意気をあげる好材料。

史上初の関西同士による争覇ということもけして夢ではない。

しかし、学連関係者の話を総合すると、優勝候補の序列は早、法、中、日体、大体大、大経大ということになりそうで、法政×大体大、法政×早稲田での法政の動きが、今大会の大きな焦点になる、とみてよい。

### ダークホースに同志社、中京

ダークホースと目されるなかでは早稲田と当たる同志社、中京、九州産大の三校がいい。つづいて広島修道大×京都産大の勝者、熊本商大、金沢工大あたりではなかろうか。3年ぶりに出場の慶応や、これまで8回優勝の名門・芝浦工大、初の北海道学連代表となった北大（注・東北北海道学連代表としては、これまでにも参加）、東北大なども一発を狙っており、上位を狙う各校には油だんできぬ存在。

### 有力校ひしめくBブロック

▼女子　男子同よう、早い段階で有力校が星をつぶしあう。

しかも、各地とも上、下位校の差が急速にせばまっており波乱ぶくみである。

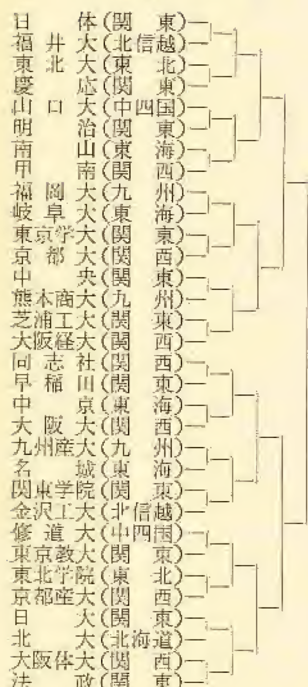
いちおう有力とみられているのは日体、大体大、東京学芸大、甲子園短大、武庫川、中京、東京女体大だが、なんと東京学芸大など5校が片方のブロックへ集ってしまった。このほか、惑星視されている東京教大、山口大が並ぶのだから、ここから抜け出すのは容易ではあるまい。

日体、大体大も順当なら2回戦（＝準々決勝）でぶつかる。大体大の緒戦。愛知教大は今季上り調子で、これまた混戦模様。

東西対抗が、意外の大差で東軍が勝ったことから、関東勢の優位――それもズバリ5年連続日体×東女体とみるムキが強いが、日体の進出はともかく、東女体大の試合ぶりは波があり、関西1位の武庫川女や中京にまったくつけいるスキがないとも思えない。このほか初出場の福岡教大が大阪教大にどう食下るか注目が集ろう。女子学生界は、年々レベルアップしているとはいえ、国内の最上位へ食いこむには、まだまだ力不足だ。

これまでの球史をふりかえると有力校が五指にみたず、ほとんどせりあいというものがなかった。

今季は関東で春は日体、東女体大に連勝を阻止され、秋は史上初の三すくみ、また、東海では岐阜大の躍進、関西でも武庫川の抬頭があり、西日本学生（7月、大阪）は大体大、山口大（西部学生1位）、武庫川が三つ巴を演じるなど、強豪の"多党化"が目立っている。このムードが持ちこまれれば女子学生界にとって本大会は大きな足跡を残すものとなろう。




○……女　子……○

日　　体（関　東）
愛知教大（東　海）
大 体 大（関　西）
日女体大（関　東）
中京女大（東　海）
福岡教大（九　州）
大阪教大（関　西）
東京教大（関　東）
山 口 大（中四国）
東京学大（関　東）
甲子園短（関　西）
武 庫 川（関　西）
中　　京（東　海）
東女体大（関　東）

☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆

# 海外トピックス

杉山　茂
（NHK運動部）

## 二つの世界選手権で活気

12月に女子、来春2月に男子と一シーズンの間に二つの世界選手権が開かれるとあって、本場ヨーロッパは、いつになく早くシーズンの開幕が告げられ、その動きも活発である。

女子の参加国にいっては、既に本誌でも報じられているが、男子も、ヨーロッパの一部で予選が始まった。

今月は、その模様と女子の消息を中心にまとめておこう。

### フランス幸先よいスタート
#### 世界男子予選始まる

第8回世界男子選手権の地域予選はヨーロッパ5地区、アメリカ、アフリカ、アジア（日本×イスラエル、49年2月）に分かれて行われるが、そのトップを切ってヨーロッパ地域第1群の試合（第1戦）が、10月14日レイキャビクのアイスランド×イタリア戦から始まった。

このグループはほかにフランスがおり、出場権をかけるとみられたフランス×アイスランド戦は21日、メッツで行われ、フランスが先勝、一歩のリードを奪った。

第2戦は11月に入ってから、ホームコートを替えて争われるが、アイスランドがフランスをどう迎えうつかみものである。

アジア地域を除いては、いずれも年内に代表が決められる予定。

なお、ミュンヘンオリンピックの上位8ケ国（ユーゴ、チェコ、ルーマニア、東ドイツ、ソビエト、西ドイツ、スウェーデン、ハンガリー）は予選を免除されている。

▽ヨーロッパ第1群・第1戦

アイスランド 26（14－5、12－4）9 イタリア
フランス 25（13－3、12－2）5 イタリア
フランス 16（9－7、7－6）13 アイスランド

### 東ドイツ、ユーゴに辛勝
#### 不調のルーマニア

第4回ニュウバンデバーグ国際女子招待は8ケ国が参加して7月末に行われ、東ドイツが決勝で延長の末、ユーゴを破り優勝した。予選リーグでオランダがルーマニアを破ったのは注目される。

▽予選リーグA組
東ドイツ 20－4 オランダ
ハンガリー 14－11 ルーマニア
東ドイツ 9－7 ハンガリー
オランダ 13－12 ルーマニア
東ドイツ 12－7 ルーマニア
ハンガリー 22－5 オランダ

▽同B組
ユーゴ 18－14 ソビエト
ブルガリア 13－12 東ドイツB
ユーゴ 13－9 ブルガリア
ソビエト 19－12 東ドイツB
ユーゴ 11－6 東ドイツB
ソビエト 18－14 ブルガリア

▽7・8位決定戦
東ドイツB 11－5 ルーマニア

▽5・6位決定戦
オランダ 14－12 ブルガリア

▽3・4位決定戦
ソビエト 11－10 ハンガリー

▽決勝
東ドイツ 10（4－3、3－4、1－0、1－2、0－0、1－0）9 ユーゴ

### 東ドイツ、好調示す
#### ハンガリー国際大会

ハンガリー女子国際トーナメントは8月上旬、ヴェスプレムで行われ、この大会でも東ドイツが順当に勝ちあがった。連日五千をこすファンが集まり、女子の国際試合としては記録的な盛況であった。

▽5・6位決定戦
デンマーク 11－10 チェコ

▽3・4位決定戦
ルーマニア 18－11 西ドイツ

▽決勝
東ドイツ 16－13 ハンガリー

### ユーゴ、地元で東独と分く
#### ザグレブ杯女子

ザグレブ・カップと呼ばれるユーゴ恒例の女子国際大会は7月なかば、ソムボルで行われ、地元ユーゴがハンガー、東ドイツをおさえ快勝した。世界選手権で日本と同組のルーマニアとノルウェーが出場、注目されたが16－12でノルウェーが勝った。

ルーマニアは、ニュウバンデンバーグ（前掲）でも不振をつづけはたして、これが〝実力〟なのか今後の動きを見守りたい。

ユーゴ 12（分）12 東ドイツ
ハンガリー 14－11 ルーマニア
ノルウェー 16－12 ルーマニア
ハンガリー 15－10 東ドイツ
ユーゴ 19－7 ノルウェー
東ドイツ 19－12 ルーマニア
ユーゴ 20－12 ハンガリー
東ドイツ 14－9 ノルウェー
ユーゴ 7－6 ルーマニア
ハンガリー 15－8 ノルウェー

【順位】①ユーゴ②ハンガリー③東ドイツ④ノルウェー⑤ルーマニア

## デンマークB勝つ　北欧4国対抗

今年の男子北欧4ケ国対抗はデンマークで各国ナショナルBによって行われ、デンマークが勝った
ノルウェー　13—12　アイスランド
デンマーク　10（分）10　スウェーデン
スウェーデン　9（分）9　ノルウェー
デンマーク　12—7　アイスランド
スウェーデン　10—8　アイスランド
デンマーク　19—6　ノルウェー
【順位】①デンマーク②スウェーデン③ノルウェー④アイスランド

## ジュニアでも東独強し

これまでは単発試合が主だった各国ジュニアナショナルのトーナメントが最近目立ってきた。このほどスウェーデン協会が呼かけて行った大会には東ドイツ、ポーランドが参加、東ドイツジュニアがさすがに層の厚いところをみせた
東ドイツ　17—14　スウェーデン
ポーランド　16—14　スウェーデン・ユース
東ドイツ　18—10　ポーランド
スウェーデン　23—16　スウェーデン・ユース
スウェーデン　19（分）19　ポーランド
東ドイツ　16—13　スウェーデン・ユース
【順位】①東ドイツ②スウェーデン③ポーランド④スウェーデンユース

## フランス勢、メキシコ、カナダへ

9年前日本に来たことのあるフランスの名門ステラ・サンモールが今夏メキシコへ遠征、4試合を行い全勝した。ヨーロッパのチームがメキシコ遠征したのは記者の知る範囲では5年前のFA・ギョッピンゲン（西ドイツ）以来のこと。

ステラとメキシコ・ナショナルとのスコア（2試合）は、24—13　28—11だった。

▽

また、フランス女子の有力クラブASPTT・ストラスバーグが9月カナダへ遠征、5戦全勝した。カナダ側はモントリオールにあるクラブチームだったが、カナダ女子界のニュースを得たのはめずらしい。

## 世界女子地域予選（最終報）

デンマーク　15—9　オーストリア
デンマーク　8—5　オーストリア
（注）アフリカ地域の記録は未着だが、代表はギニアに決定。

## ヨーロッパカップ（男子）展望

ヨーロッパ各国のチャンピオンチームによる恒例のヨーロッパカップトーナメント（男子第14回、女子第13回）が、9月14日幕をあけた。（女子は来年1月開幕）

男子はルーマニア、イタリア、イギリスを除く24ケ国、女子は17ケ国から代表が送られているが、いずれも史上最高の数。

ホームアンドアウェイで激戦をくり返しながら、来春4月まで延々とした大会をつづける。

1段階ごとに組み合せの抽せんを行うため、優勝争いを占うのはなかなか難しいが、やはり今シーズンも、国内レベルが高く層の厚い国からの代表が上位へ勝ち進むものとみてよい。

2連勝を目指すMAI・モスクワ（ソビエト）、SC・エムポールロストック（東ドイツ）、TJ・セルベナ・ブラティスラバ（チェコ）、ポラク・バンヤルカ（ユーゴ）、VfL・グンメルスバッハ（西ドイツ）らは特に注目される存在である。

今シーズン、ヨーロッパファンの関心を集めているのは、グンメルスバッハの巻き返しがなるか、という点だ。

去年はMAI・モスクワ、一昨年はパルチザン・ブジェロバルとついにヨーロッパカップまで東欧圏に持ち去られており、それを西側へ奪い返してくるのはグンメルスバッハしかない、とファンは思っているのである。

前回（今年4月）の決勝はモスクワ×ブジェロバルの顔合せだったが会場のドルトムント（西ドイツ）のウェストハーレンは一万人をこす収容能力があり乍ら、五千程度しか席が埋まらず、この面からも「やはりグンメルスバッハあたりが勝ちこんで来なければ…」という声がおきた。

このほか、有力とみられているのは、来春、日本遠征の噂がとんでいるスタディオン・コペンハーゲン（デンマーク）をはじめ、ザエスカ・モスクワ（ソビエト）、チーブ・リンコピング（スウェーデン）、ロコモテイフ・ソフィア（ブルガリア）、メディナ・ギブスカオ（スペイン）ら。

メディナは、すでに1回戦でハポエル・ラクリア（イスラエル）を32—16、29—23で降しており、好調なスタート。

イスラエルは、いぜんこの大会だけは、ヨーロッパ地域として代表を送ることが認められているもの。

ファロー諸島から初登場のキンドル・トルシャフンは緒戦がIF・オプサル（ノルウェー）では苦しい。

過去2度優勝の記録をもつルーマニアは2年つづけて棄権。理由は詳らかにしない。

女子は世界選手権の関係で49年1月11日開幕の予定、展望も後日にゆずりたい。

# 各地の記録

## 高校女子は浦和市立

▼埼玉県民体育大会ハンドボール競技（9月・行田）

▽高校男子準々決勝

浦和南 17－11 県立坂戸
教大坂戸 16－10 大宮
川口工 24－15 大宮北
浦和市立 8－7 菖蒲

▽同準決勝

教大坂戸 12－9 浦和南
川口工 19－8 浦和市立

▽同決勝

教大坂戸 没収試合 川口工

▽同女子準々決勝

深谷女 15－8 聖望
行田女 7－3 嵐山女
川口女 8－3 浦和南
浦和市立 6－4 熊谷商

▽同準決勝

深谷女 10－6 行田女
浦和市立 3－2 川口女

▽同決勝

浦和市立 13－9 深谷女

▽一般男子1回戦（2試合）

桐球会 20－5 皇山ク
STC 36－11 大宮ク

▽同準決勝

霞会 23－17 桐球会
STC 34－11 曙ブレーキ

▽同決勝

STC 26－4 霞会
（埼玉県教職員）

## 静農ク、清商ク破る

▼第4回静岡県クラブ選手権（9月・清水市商）

▽男子準々決勝

清商ク 26－5 修善寺ク
浜南ク 22－8 天竜ク
蒲原ク 12－5 富士ク
静農ク 23－5 三信ク

▽同準決勝

清商ク 22－13 浜南ク
静農ク 15－10 蒲原ク

▽同決勝

静農ク 23（13－3、10－4）7 清商ク

▽女子決勝リーグ

城北ク 7－6 清商ク
清商ク 9－4 二俣ク
城北ク 10－2 二俣ク

## 茨城教員、順当勝ち

▼茨城県秋季一般選手権（9月・玉造町）＝男子のみ

▽準々決勝

自衛隊勝田 19－9 茨城大
茨城教員 27－8 茨苑ク
原子力研究所 不戦勝 麻生プリンス
麻生ク 19－11 土浦三高OB

▽準決勝

茨城教員 不戦勝 麻生ク
自衛隊勝田 20－12 原子力研究所

▽決勝

茨城教員 21（10－8、11－9）17 自衛隊勝田

## 男子で知念が初

▼第10回沖縄高校選手権（9月・奥武山県営体育館）

▽男子準決勝

沖縄工 10－8 浦添
知念 15－10 糸満

▽同決勝

知念 17（8－5、9－7）12 沖縄工

知念は初優勝

▽女子準決勝

小禄 21－3 首里
興南 18－6 北山

▽同決勝

小禄 12（6－3、6－8）11 興南

小禄高は7度目の優勝

## 和洋女、ゆるがす

▼秋田県高校新人戦（9月・湯沢高体育館）

▽男子決勝トーナメント1回戦

湯沢 20－5 秋田南
大曲 18－8 羽後

▽同3位決定戦

秋田南 10－8 羽後

▽同決勝

大曲 10（5－4、5－5）9 湯沢

▽女子決勝リーグ

六郷 8－3 大曲
秋田和洋 21－3 大曲農
秋田和洋 20－4 大曲
大曲農 8－7 六郷
大曲農 8（分）8 大曲
秋田和洋 18－4 六郷

【順位】①秋田和洋②大曲農③六郷④大曲

## 一部は初芝と大谷に栄冠

▼大阪高校総合体育大会ハンドボール競技（9月・北野高ほか）

▽男子1部 トーナメント1回戦（＝準決勝）

佐野工 15－7 三国ケ丘
初芝 8－3 枚方

▽同決勝

初芝 11（0－0、4－1、…、4－4、3－3）8 佐野工

▽同2部決勝

桃山 12－5 生野

▽同3部決勝リーグ順位①北淀②成器③高津

▽同4部決勝

門真 8－6 泉大津

▽女子1部決勝リーグ

大谷 6（3－0、3－0）0 東大阪
東大阪 3（1－1、2－2）3 枚方
引き分け
大谷 4（2－0、2－1）1 枚方

【順位】①大谷②東大阪③枚方

▽同2部決勝リーグ

梅花 6－3 門真
梅花 10－2 和泉
門真 8－0 和泉

▽同3部決勝リーグ順位①四天王寺②愛泉③食品産業

## 大同同士は引き分け

▼第28回愛知県実業団リーグ（9月・名古屋市体育館）

▽男子1部

大同製鋼 28—13 新日鉄
トヨタ車体 27—6 トヨタ自工
トヨタ車体 25—6 ブラザー工業
大同星崎 20—7 ブラザー工業
大同製鋼 23—11 トヨタ自工
トヨタ車体 19—14 大同星崎
大同製鋼 21(分)21 大同星崎
トヨタ自工 21—10 ブラザー工業
大同製鋼 33—16 ブラザー工業
大同星崎 20—10 トヨタ自工
大同星崎 20—10 新日鉄
大同製鋼 27—15 トヨタ車体
新日鉄 18—9 トヨタ自工
トヨタ車体 24—16 新日鉄
新日鉄 17—7 ブラザー工業

【順位】①大同製鋼4勝1分②トヨタ車体4勝1敗③大同星崎3勝1分1敗④新日鉄2勝3敗⑤トヨタ自工1勝4敗⑥ブラザー工業5敗

【2部順位】①豊田工機②パイロットインキ③アイシン精機④豊田織機⑤中部電力

▽1・2部入れ替え戦

豊田工機（2部） 10—8 ブラザー工業（1部）

▽女子（2回戦制）

ブラザー工業 35—3 伏原紡織
伏原紡織 6—5 豊田工機
ブラザー工業 19—1 豊田工機
ブラザー工業 14—2 豊田工機
ブラザー工業 24—5 伏原紡織
豊田工機 9—4 伏原紡織

【順位】①ブラザー工業②豊田工機③伏原紡織

## 本渡市、水俣市破り優勝

▼第28回熊本県民体育祭ハンドボール競技（9月・熊本市商）

▽男子1回戦（3試合）

菊池郡市 25—9 玉名市
水俣市 28—14 鹿本郡市
熊本市 18—10 下益城郡

▽同準決勝

本渡市 21—10 菊池郡市
水俣市 17—13 熊本市

▽同決勝

本渡市 15—7 水俣市

## 男子は弘前南が勝つ

▼第23回青森県高校選手権（10月・野辺地商）

▽男子準々決勝

弘前南 12—5 青森商
柏木農 20—5 十和田工
三本木 12—4 五所ケ原
青森 11—9 野辺地

▽同準決勝

弘前南 11—7 柏木農
三本木 6—1 青森

▽同決勝

弘前南 14（5—0 / 9—5）5 三本木

▽女子予選リーグA組順位①青森西②七戸③三本木

▽同B組順位①柏木農②野辺地③七戸

▽同3位決定戦

野辺地 6—2 七戸

▽同決勝

青森西 14（6—0 / 8—0）0 柏木農

## 投書欄　明日への提言

### 実業団も東西対抗を

現在行われている東西対抗は学生だけですが、実業団でも是非、この試みを実現できないものでしょうか。

今や、国内のAクラスといえば実業団勢が圧倒的で、有力選手にはそれなりにファンもついている感じがします。

オールスターと銘打って、個人技を楽しませる企画があって当然よいものと思います。

アマチュアなので、ファン投票などはいけないかもしれませんが、それと似た方法がとれたら、なお面白いと思うのですがいかがでしょう。

学生は1試合だけですが、できることなら3試合ぐらいのシリーズにして、主な都市を転戦するのも案です。

以前、全日本のサーキットというのがありましたが、対戦相手が地元ですので、スコアが開いてつまりません。

東西対抗の滞同なら、満足ゆく内容が期待できます。もちろん、男子だけではなく、女子も行ってよいでしょう。

【大阪・戸田三保子・高校生】

## 中学大会記録

◇北陸3県大会（8月・金沢）

▽男子

氷見南部（富山） 7—6 芦城（石川）
大島（福井） 10—9 氷見南部
芦城 17—16 大島

【順位】①大島（総得点26）③芦城（23）②氷見南部（16）

▽女子

南部（石川） 12—0 光陽（福井）
岩尾滝（富山） 15—6 光陽
岩尾滝 6(分)6 南部

【順位】①南部（得失点差12）②岩尾滝（9）③光陽

「各地の記録」欄への寄稿をお願いします。〆切日は特に設けませんが、大会終了後2週間以内にはお送り下さい。用紙自由。誌面の関係で原文を短くする場合があります。

## ☆編集後記

◇……お気づきのかたもあると思いますが、最近、女性読者からの投稿が多くなりました。嬉しいことです。ただ、ファンレターまがいの内容はそれにあてる誌面の余裕がありませんので、当分、掲載を見送らせていただきます。

◇……評議員の宮川健一郎さん（茨城）から、随想ふうなラインハウゼン原稿が送られてきました。こうしたタッチの寄稿が少いだけに、ありがたいことでした。

官報的に流れるのは機関誌の宿命でしょうが、なんとか楽しく読める雑誌にしたいと思っています。

◇……久しぶりに援軍を得ました。東京の根城泰君と宮野秀樹君、二人とも学生で、本誌の編集委員公募に応じてくれたもの。彼らの若く、新しい感覚が盛りこまれると、本誌も変ぼうできるかも知れません。

12月号から、活躍してもらう予定です。

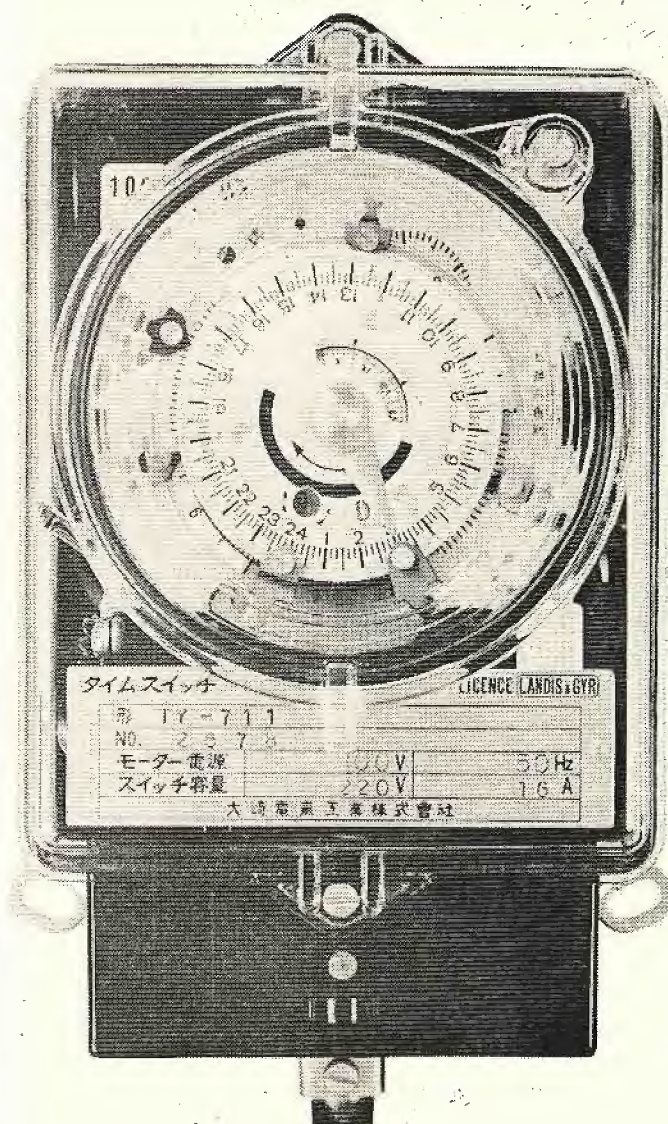
◇……例年なら全日本総合で一息ですが、今年は男女の世界選手権が控え、本部役員には最近、「オフ」というものがなくなりました。（杉）

Osaki

# タイムスイッチ

## TYシリーズ

## 24時間では足りないあなたに1日＝72時間




大崎タイムスイッチならそれが可能です。毎日、毎週、毎月、定時刻に自動的にスイッチを〈入・切〉するあらゆる設備機器や年間の日没・日出時刻に応じ、自動的に照明を〈入・切〉する場合に最適です。





大崎電氣工業株式會社

〒141 品川区東五反田2丁目2番7号 TEL.03（443）7171番

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』　第一一四号
昭和四十年六月七日第三種郵便物認可　昭和四十八年十月二十五日印刷　昭和四十八年十一月一日発行
発行所　日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一－一－一
電話　大代表(467)三一一一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人　保坂周助
定価　二百円（年間購読料千八百円）